

The Kansai University Bulletin

Osaka, March 15th, 1925—No. 27

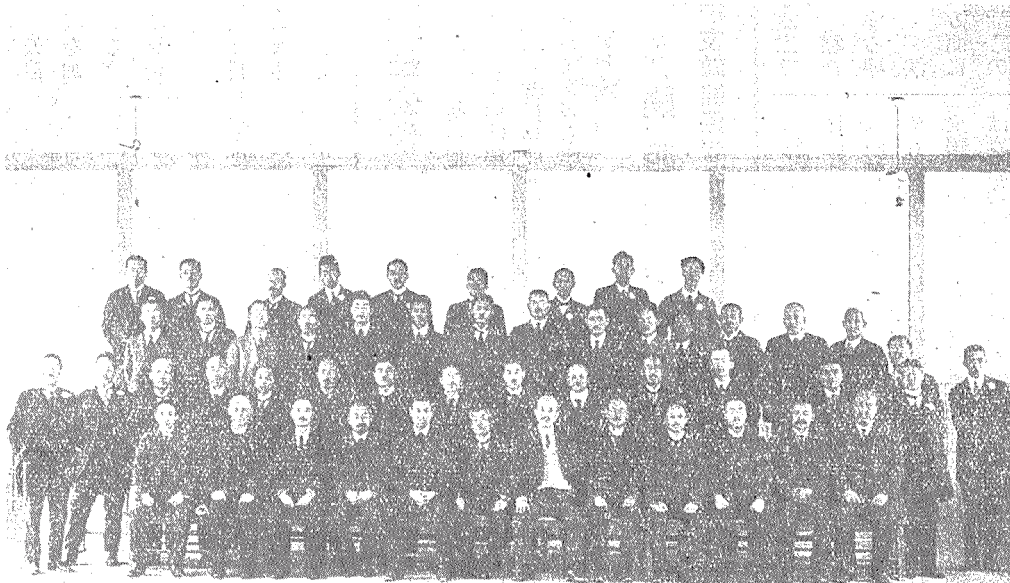
報學山里子

行發日五十月三

號七十二第

年四十正大

Principals and English Teachers of the Secondary
Schools in Osaka visiting the University.



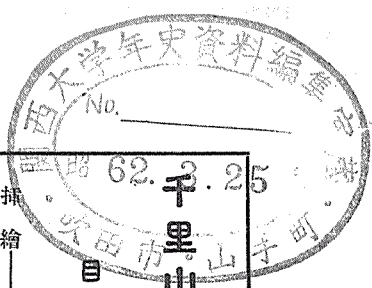
照參事記の氏諸諭教任主當擔語英に並長校學等中下府阪大るけに學本

阪 大

堀 佐 土 話 電
番〇七五五・九四〇一

局 報 學 學 大 西 關

座 口 金 貯 替 振
番五七八二一阪大



千里山學報 第二十七號

目次

繪	本學に於ける大阪府下中等學校長及び
同英語擔當主任教諭諸氏(表紙)	遠部逸太郎氏
の近照	故パンタレオニ教授—第二回近畿中等
學校英語雄辯會大(その一)同(その二)アーサ	
・エリオット氏—仁德天皇陵前に於ける皇陵	
崇敬會會員參拜記念攝影	
本學學部改造に就て	卷頭言
歷史哲學史概説	關西大學講師 武内省三
詩學概説	關西大學講師 新町徳之
パンタレオニ教授を弔ふ	
關西大學教授 岩崎卯一	
學内報—學部變更の件認可—社會科學研究會第	
十三回例會—卒業及び修了試験終了—第三學期	
授業終了—府下中等學校長及び英語擔任教諭招	
待會—本學新學長決定	
校友の面影—遠部逸太郎氏	
雜錄—新刊紹介	

本學學部改造に就て

從來の法學部を今回法文學部と改稱し、既設法律學科及び政治學科の外に更に文學科を加設したことは本號學内報報道の通りである。

文學科加設の必要なる所以は、會て本學事務理事宮島綱男氏に依り、本誌上に於て述べられたるこゝあり、又曩に本學専門部に文學科が増設せられた際、その開講式式辭を以て本學總理事山岡順太郎氏に依り大體盡されたる

ところであるが、今この機會に更めて一言するも強ち蛇足ではあるまいと信ずる。

憶ふに文學科加設の理由は、これを二個の立場から主張し得る。大學教育上より觀たる本

來の理由が即ちその一にして、我關西大學そのものより觀たる特殊の理由が即ちその二である。

先づ前者より始めんか、第一に、綜合大學に於ては、人間の精神的方面を論ずる學問がその教育の基調を爲すものであつて、法律、經濟、商業等の學問はこの精神的方面に於ける教養の上に樹つべきものである。この基調なく、若くはその圏外に於て前記諸學を研究するのは所謂空中樓閣を描くの類であつて、極めて不健全なるものである。この事實は歐米諸大學の歴史に徴するも明かであつて、

學長就任公告

拜啓 本學學長ノ事務ハ從來總理事ニ於テ取扱ヒ居リ候處今回法學博士松本蒸治氏ヲ學長ニ推薦シ就任相成リ候間此段謹告仕リ候尙ホ相變ラズ本學ノ爲メ萬事御高援賜リ度ク願上候 敬具

大正十四年三月 關西大學

關西大學校友並關係者各位

その多くは文學に關する教育を基本若くは中心として發達し、以て今日の盛大を見るに至り、範を我國の大學に示しつつあるのである。又個人の人格を陶冶し、その生活内容を豊富にする上に於ても、文學に關する教育は重要な要素を爲すものであり、更に文學教育の影響するところは甚だ大であつて、當に文學科に屬する學生のみに止らず、更に同じ大學に學ぶ他學科の學生に對しても亦直接間接に精神的感化を及ぼし、延いてはより良き社會の實現に資するところが尠くないのである。

次に本學より觀たる特殊の理由に就き述べんに、西日本に於て文學に關する教育を施す機關なく、殊に我國固有文學の淵藪である大阪にこれを缺く云ふことは、夙に本學の遺憾としてゐたところである。文學科の増設は即ちこれを補はんために外ならない。而も大阪戦近の發達は、あらゆる意味に於て著しきものがあり、特にその經濟的活動に於ては全國の中樞を爲し、從つて精神的教育の缺陷は益痛切に感ぜられつつある。この秋に方り、ここに文學科を増設して綜合大學たるの一步を進めることは、蓋し大阪に存在する本學の使命であること信するものである。尙ほ近時所謂思想問題に關して四面憂虞の聲を聞くこゝ

頻であるが、思想善導の最も正しき、且つ最も力強い方法は、教育就中精神教育を措いて他にこれを求むることは出来ないものである。以上の理由により本學は文學科の加設を計畫し、ここにその實現を見るに至つた次第であるが、尙ほ本學文學科の特長とするところは歐米諸大學に於て永年經驗され、既にその成果の大なることが認められてゐる科目選擇制度に存するのである。即ち同科に於ては哲學を専攻する者は哲學に關する僅か二三の根本的學科、又英文學を専攻する者は英文學に關する絕對的基本學科二三のものを必修科としてこれを強要するに止め、一方に於て多數の學科を配し各自の趣味と能力と乃至社會的活動の方針とに依つて隨意選擇せしむるこゝになつてゐる。更に法律學科及び政治學科に於ても近き將來に於て、國家試験の受験等に差支のない範圍内に於て前記選擇科目制度を適用し、文學科の學生が法律政治に關する講義を聴き得るに同様に、法律政治専攻の學生にも文學に關する講義を聴くの機會を與へるやうにしたい希望である。

かくするに依り、ここに初めて圓滿なる人格並に不遍の知識の所有者を造就することが出來、從來の通弊であつた法律政治等を修めたる者は比較的文藝の方面に親します、又文學を究めたる者は社會的實用科學を疎んずる等の憾を緩和調節することが出来るのであつて、これ即ち法文學部の融合的名稱ある所以であり、且つ同學部の妙味とするところである。

研究

歴史哲學史概説

關西大學講師 武内省三

一

社會學とは親密な關係に立ちながら然かも尚同一物に見做し難いのは歴史哲學である。元々歴史哲學 Philosophie de l'histoire 又は術語はヴォルテール Voltaire (1694-1778) が一七六五年に公にした論文に名付け更らに一七六九年、彼の著「諸國民の道德及國民性に關する論文」"Essay sur les moeurs et l'esprit des nations" に序論なる標示を附して表題に書き加へられた物である。歴史哲學は先づ第一に人類の歴史的發展に於ける其法則に其意義を及其目的に關する思索を意味する。其が社會學との間に有する親密なる關係はベルンハイムが正當に道破した如く兩者が共に社會的存在としての人類を其考察の對象とする點に存する。兩者の相違は然しながら社會學は集團其自身に就いて及該集團の内部に於て發展して行く個人對全體の關係を論及する物であるが之に反し歴史哲學は既往の歴史の經過内に存在した諸關係の成果をば一般的に世界觀及人生觀の立場に立つて考察し此に依て歴史の原動力に其強度及發展の方向を窺知しやうと欲する物である。歴史哲學は斯るが故に嚴密なる意味に於て社會學をば其前提として豫想する物であり従つて社會學の進歩に俟つて絶えず新しい問題に觸れ、新しい解決に進ませられる。

二

歴史哲學的な思索は最初イスラエルの豫言者達の内に誓約の形を採つて現はれた。エホバは諸諸の國の間を裁きおほくの民をせめたまはむ。斯て彼等は其劍をうちかへて勵まなし其槍をうちかへて鎌まなし國は國に向ひて劍をあけず戰の争を再び學ばざる可し「イザヤ書二、四、ミカ書四、四」此イザヤ書に現はれたる如く神は地上の總ての民族を統一するに至るに彼等は考へた。於爰全智全能な神が人類の歴史をば其氣高い胸に秘められた計畫に従つて決定し方向づけるに云ふ思想が初めて比較的明確な姿を以て描き出されたのである。希臘人にあつてはキニク學徒やストア學者等が一切の人類の平等を其聯盟を高くし彼等の運命を之を主宰する神意に就いて斷片的に語つた事はあつたが、歴史をば統一的に考察する慎重を缺き歴史の到達す可き所定の目的に就いて一瞥を投ぐるの聰明さを持ち合はせなかつた。次に自ら地上の英雄を以て許した羅馬人は羅馬の世界統一の日の來るのはジュピターの決意だと思つたヴァーギル Vergil の視方を欣んだ。彼等は歴史の課程をば主として政治家や軍將等の精力に敏腕の功に歸する。然し元來斯る問題に就て穿鑿するのは彼等の仕事ではなかつたので歴史哲學に華やかな發達を見る事なしに終つた。神が世界史を導くに云ふ思想は基督教に於て初めて明確に形成せらるるに至つた物である。總ての人間は皆神の子であり神の前には兄弟である。彼等は皆クリストによつて救に與りかくして内心の平和と永遠の祝福への道を示さるるに至つた。斯く説かるるに至ては

然らば人類の運命を特定の目的の元に支配し其共同の目的點に導き給ふ神の計劃は果して何であらふか、其を尋ね其を發見せむとする眞摯な想が湧き出るのは亦當然の勢に云はねばならぬ。教父アウグスティン Augustinus of Thagaste (354-430)こそは斯る想を深刻に把握した人である。彼は亦其著「神の國家に就いて」"Über den Gottesstaat" "De civitate Dei" の内に於て偉大なる様式の下に初めて歴史哲學的考察を陳べた第一人者であつた。彼によれば人類の歴史的發展は神意が自らの計劃に従つて世界を導く其事である。「天に地、人間と天使に許りではなく最も小さき卑しき存在物の内臓にも、鳥の羽毛、植物の花、樹の葉にも各部分の調和ある統一の内的な平和を授け給ふた神、其神を思ふとき我は人間の帝國に其支配及隸屬をば神意の法則外に立つとは信ずる事は出來ない。又かく信ずる事は許されぬのであらふ。Buch. V Kapitel II) 人類は實に一個の統一體を構成してゐる。何となれば總ての人間は神の子なるが故である。此統一は然しながらアダムの罪に依つて破られた。其れ以來此世界には二種の市民に二種の國家が存在する様になつた。其一は人間的及地上的な、肉に趨らむとする國家であり、他は神的、天國的な國家であつて其は靈の内に生きる。地上の國家は人間の自己愛より發生するが故に神を蔑にするに至り天國の國家は神に對する聖愛より發生するが故に人人は己を虚ふするに至る。アウグスティンは歴史をば或時は二期に、或時は三期に又或時は六期に細別してゐる。而して何時でも其最後の時期は基督の出現に

共に此地上に初まる物となした。基督は最後に神の王國を此地上に建設した。其は總ての眞に敬虔なる人人、信仰の人人の聯合より成る王國である。併して此神の王國こそは總ての地上的國家よりもより永く榮へ、全人類に永遠なる生命に内的な平和とを齎らすものであらふ。

アウグスティンの「神の國家」は畢竟羅馬教會の事を意味した物に外ならなかつたので、彼の思想を直截に云ひ表はせば一切の歴史の到達す可き目標は、基督教會の普遍的支配にあり云ふ事になる。かくて此時以來教會は常に斯る理想の支持者であるを自認するに至つたのである。斯る見解は中世紀の全體を通じて信奉せられ今日尚引續き行はれてゐる。實に人類の歴史が神に依つて導かれるに云ふ此アウグスティンの思想は教會に關する考察から離れて見ても歴史觀として一般に裨益する所少くはなかつた。ボッサー Boissuet (1629-1704) は之に倣つて一六八一年に公にした「一般論考」Discours sur l'histoire universelle に於て見えたる神の手が人類を導いてゐる事を證明せむを企て、レッシング (1729-1781) は次で「人類の教育」Erziehung des Menschengeschlechts を語つた。十九世紀否二十世紀に於てすら尚同様な思想を表白する偉大なる歴史哲學者達もおるのである。

三

斯る神學的歴史觀は元來舊約聖書の内にて折折暗示せられておつた物ではあつたがアウグスティンに依て初めて一定の學說として形成せられ其後彼の直接間接の影響を蒙つて今日迄持續して來たのである。が然し次第に覺醒

して來た科學的意識をば何時迄も満足させる事は出来なくなつた。斯くして十六世紀以後は人類の歴史的發展をば自然的條件から理解し、氣候や地形狀態の及ぼす影響を明にし、人類の固有な性能や傾向を尋ね、而して——若し可能であるならば——此等の要素其物の内に芽生えて含まれた人類歴史の方向に到達點を見定めやうとする新しい試みが絶えず次々企てらるに至つた。ボダン Bodin (1530-1597) アルツァウス Althusius (1557-1638) ホンブス Hobbes (1588-1679) モンテスキエ Montesquieu (1689-1755) ルソー Rousseau (1712-1778) 等の勞作は實に歴史哲學の進歩に對して新しくして且重要な貢獻をなしたのである。

かく神學的歴史觀の壓迫から解き放たれ社會學的視點に移つた歴史哲學者の最初の重要な一人はヴォルテールである。彼は歴史的發展の動力をば天才と時代思潮 *esprit du temps* に認め宗教、政體、氣候等をも併せ數へた。併しながら偉大にして強い人格は此等一切の外的影響から超越し、獨立の力として立つて教ふる。然らば次に歴史の到達點は何であるか。其は理性と自由との支配である。戰爭と迷信と無條件的な教會の支配は進歩の障害物として新時代の敵と見做さねばならぬ。彼は斯く説いて情弱な貴族階級の專横と僧侶の擅まにした教權とに挑戦したのである。モンテスキューも亦ヴォルテールと同じく歴史觀の内から超絶的、神學的要素を除き去り、新しく社會學的視點に立つて歴史を考察するに努めた。彼の不朽の名著「法律の精神」*De l'esprit des lois* に於て、彼は自然的環境

と一國の法律、制度との間には斷ち難い深い繋りのある事を發見し、從て一國の法律は其の國民特自のものであつて假に他の國民に適する事があつても其は偶然の適合と見なければならぬと説いておる。此自然と文化との有機的關係に注目した點は彼の異常なる獨創力と明敏なる洞察力とに其功を譲らねばならないのは勿論ではあるが唯併し啓蒙時代の非神學的雰圍氣に育まれた一事も亦看過し得ない點であらう。チュルノー Turgot はモンテスキューを繼承して諸國民の相違は特に地理的影響に基く事を説いたが彼は更に其より一步を進めて歴史的發展には或る一定した階段の存在する事を主張した。一七五〇年彼は「人間不平等の原因と基礎に關する講義」の内に於て一切の國民を通じて均しく經驗する三段の歴史發展の階段説を提唱した。之れ後年サンシモン St. Simon に依つて採用せられ更にコント August Comte によつて一大體系に迄完成せらるに至つた神學的、形而上學的、及自然科學的時代なる階段説である。併しながら此等の人人に増して歴史哲學の進歩に大きな躍進を刺激した者は不平の子ルソーであつた。

彼は一七五〇年「科學及藝術論考」*Discours sur les Sciences et les Arts* に於て學術及藝術の復興が道德を高むる事に與つて力ありやと云ふ課題に對して大膽なる「否」を投げつけた人間である。次いで一七七三年「人間不平等の原因及基礎に關する論考」*Discours sur l'Origine et les Fondemens de l'Inégalité parmi les Hommes* を著して文明の價值を疑ひ、其虛飾の遊墮を咀ひ、單純と質朴と粗野

とを受した。人類の社會は其原始の狀態に於ては總てが自由と獨立とを樂しんでおつた。併しながら自然との絶えざる闘争は次第に人類をして集團化するの必要を感じしめ彼等は爰に村落を形造る事になつた。人人は此集團的な村落生活に於て若干の惡徳と惡感情とを醸成するに至つたが他方今迄經驗しなかつた協同感情をも養ひ得て爰に最も幸福なる生活を營む事が出来たのである。實に人類は此階段に留まる可きであつた。然るに不幸にも文明は更に前進し廣大な土が耕やされ分業の必要が起り富の蓄積が初まるに及んで社會は反て自らの産み出した數へ悉されぬ害毒に洩く事になつた。人類は猜忌と憎惡の想を抱いて利益の爲め醜い闘争を續け、嘗て育んだ溫い感情を失つて終つた。ホッブスの所謂闘争狀態は爰に事實として實現せられたのである。

此闘争の内にあつて自らの財産を守るに不安を感じ初めた有産階級者等は自己の財産を保護する爲め一の制度を設定し、各人が現に有しおる所を相互に相犯さない様に相互に契約するの必要を説くに至つた、斯くして政府と法律とは發生した。そして私有財産權及之に伴ふ不平等が法律上神聖な物と決定せらるるに至つて無産者は此所に自由と平等と獨立とを失ひ他階級の奴隷となつて終つたのである。文明の進歩とは畢竟此不平等の擴大であり其に伴ふ害惡の蓄積である。ルソーは斯く文明の暴虐と虚偽とを呪咀しつつ清新な「自然に歸れ」。其所では個人の自由なる意志は一般意志と相一致するに至るであらう。彼は時代に向つて斯く警告したのである。此等西歐の思想家と略時代を同じふして南歐

伊太利にも偉大なる歴史哲學者が生を享けておつた。其はヴィーロ Giovanni Battista Vico (1668-1744) である。此偉大なる思想家は生時社會から冷遇せられ彼の歴史哲學の重要な意義も初めて前世紀頃より次第に一般に承認せらるるに至つたに過ぎないが、彼の著「諸國民の本質に關する新科學の諸原理」*Principi di una Scienza nuova d'intorno alla commune natura delle nazioni* とは科學的、特に心理學的根據の上に立つ歴史哲學の嚆矢として推舉せられる物である。其書の第一部第二章に於て彼は新科學の根本原理を百十四の公理として掲げたが此原理は歴史研究の方法として眞に劃世的な物であると稱せられておる。先づ彼は此市民世界は人間其自身に依て造られた物である云ふ科學的な見解を述べて在來の神學的見解に反對した。彼の此立場からは歴史をば人間性質に獨特なる性能に從つて研究すべしとする要求が必然的に出て來る。彼は更に「事物の性質とは一定の時に於て一定の様式下に發生した其通りの物に外ならぬ」(公理一四)と信じたが故に事物を究めやうと欲したならば先づ其起原を明かにせねばならぬとする發生的考察方法の重要さを鋭く觀破し彼自ら此方法の完成に努めたのである。ヴィーロは又言語の重要さにも論及し其言語の進化發展の跡を追つて一民族の人生觀及風俗習慣の變遷を學び得べしと説いた。彼は其所謂新しき科學に於て精神の進化史を與へやうと志し其科學の領域をば一方神學的形而上學から又他方自然科學から區別して其限界を定めた。此新科學の教ふる所によれば哲學や數學が追求する「眞なる物」と相

並んで、人類の世界には尙單なる「蓋然的な物」、即一般的に一致する歴史的傳説に根據をおく確信等が存在する。而かも實際に人間の行動を左右し歴史的発展の上に大なる役目を果たしつつある物は此蓋然的な確信である。ウィニコは此の驚く可き卓見を以て人類に關する新科學即歴史の内には理性と相並んで權威、歴史的傳説と云ふ社會的要素が最も大なる重要性を持つてゐる事實を稱道した。斯るが故に彼は常識 *Sensu commune* 即一般的に妥當する意見をば歴史認識の極めて重要な源泉だと考へたのである（公理十一）。ウィニコは元法律家であり且言語學者である。此事實は彼の所説をして眞に歴史的であり且社會學的たらしめるのに相應はしかつた。併しながら彼も亦時代の兒たるを免れ得なかつた。神學的な考へ方の環境の内に長じた彼は到る所で神意の計劃を尋ねてゐる。彼の歴史的知識は又大部分聖書と古典的作物からのみに限られてゐるので彼の世期分類 *Epocheneinteilung* も可成り古臭い點がないでもない。唯併しながら此等の缺點の存するにも係はらず尙彼の發生的研究方法と心理學的説明に對する要求、自然科學に對立して歴史の限界を定めた事、及彼の歴史的及社會的探求に對する鋭い感受性等は現代の歴史哲學の上に少なからざる影響を及ぼしてゐるのである。

「人類歴史哲學論考」 *Ideen zur Philosophie der Geschichte der Menschheit* (1784-1787) は實に人類の進化發展を押し進める要素を發見しやうとする充分の意識を以て企てられた試みであつた。ヘルデルは自ら其著書の序言の内に述べて曰く「然らば世界中の總ゆる物には哲學と科學とがある以上我に最も近い物、即全體としての人類の歴史にも亦哲學と科學とがある可きではなからうか」と云ふ考が屢私に浮んだ」と告白してゐる。多くの人達は此企てに賛成したが反對した人々も數多かつた。斯して彼は亦云ふ「私は出来る限り歴史哲學を探索した」と。此の問題其自身に關する明確なる意識を加ふるにヘルデルの與へた眞に哲學的と呼ばるるに値する統一的な解決をば彼は歴史哲學の創設者として推奨するに至らしめた契機である。

ヘルデルの根本思想は彼の時代に發生した新しき教化の理想、即彼自身其促進の爲めに効果多き努力を拂つた其教化に最も密接な關係を保つ物である。一體彼によれば教化とは單に「知る」と云ふ事だけではなかつた。其は精神の諸能力をば内部から發達させる事である。慈愛深き神は人間に對して其内に潜む動物性を征服し親切、人間愛、美に對する欣、及道德的自由を内に發展させる素質を授けて呉れた。此等の内に潜む尊い人間的な要素は教育と教化とによつて生き生きとした發展を遂げ終には完全なる自己支配の境地迄引き揚げる可き物である。人間的要素の斯くの如き發展の成果をばヘルデルは *Humanität* と呼んだ。而して此 *Humanität*こそは彼によつて歴史的発展の目的地となされたのである。

。歴史は今や徐徐にはあるが而かも此最終のユートピアを目指して暮進する絶ゆるなき歩みを示す。ヘルデルの歴史哲學は此歩みの跡を我に教ふる物である。彼は先づ地球や植物や動物の進化の跡を瞥見した後人間界に登り其歴史生活を論じてゐる。此著述は元來全部完成してゐる譯でもなく又歴史上の大觀も其多くの部分に於て其根本視點が不確定である。然しながら其全體に亘つて彼の根本思想が輝き亘つてゐる事は否む事は出来ない。我は彼によつて充分な満足を得られし事は無いとしても尙統一的な歴史の縮圖を思ふ。

ヘルデルは飽く迄も一切を心理的視點より考察する人であつた。勿論彼も亦時代の空氣から脱離し得ない以上形而上學的要素に患はされた點がないでもない。即ゲーテと共にスピノザの一元論に靈感を別つた形而上學者としての彼は自然と精神、肉體と靈魂との關係は到る所に於て彼の世界觀及人生觀の出發點をなし又其支柱をなしておつたのである。併しながら彼の根本思想たる *Humanität* は純心理的に考察せられた結果其は人間の内に存する價值ある精神的諸能力の發展にありせられたのである。此點が彼の歴史哲學をば在來考察せらるる事稀であつた個人主義的傾向へ進ましめた所以である。ヘルデルは併しながら人間が自己の能力を發展せしむるに際しては他人に依存せずにはおられない事を再三力説し、傳統や教育の意義をば決して見誤る事はしなかつた。人間の社會的性能は彼には充分な明確さを以て意識せられておつたのである。

。唯併しながら此社會的要素は彼によつては單に個人を教化する手段に過ぎない物であつて決して人間精神の主要なる構成部分ではなかつた。歴史の到達點は實に人間に具はる諸性能を發達せしむる事に依つて内的調和と満足とに到達する様個人を教化發展せしむる事に外ならぬ物とせられたのである。人類の教育とは斯くして初めて存在するに至る。何となれば總ての人間は唯教育によつてのみ人間となり、又全人類とは個人の此相互連鎖の内に生活する物に外ならぬが故である。實に個々の人間が教育せらるるのではなく全人類が教育せらるるのであると云ふ人があるならば彼の言葉は私には解し難い物である。何となれば人類とは種屬とは單に一般的概念に過ぎない物であつて實は個々の個人が存在するに過ぎぬからである（九篇十章）。ヘルデルは人間としての完成には如何なる個人も雖唯自己一人に頼つただけでは到達し得られず全體に依存する事に依つてのみ實現し得らるる事を認めた。さればこそ *Humanität* の全縮圖は傳統と教育とに育まれた個人の内にのみ見出され得る事を確信したのである。唯併し彼は此依存關係をより深く探究はしなかつた。ヘルデルは心理學者であると共に歴史哲學者であつた。彼は又形而上學者であると共に神學者であつた。併し彼に未知であつたのは社會學的視點である。彼の歴史哲學は此故に更に一段の完成を必要とする物である。

四

カントは歴史哲學に對する一の極めて重要な論説をば「世界市民主義的一般歴史考」 *Idee zur allgemeinen Geschichte*

in weltbürgerlicher Absicht" 1784. 云ふ極めて深い内容に富んだ小著の内に與へておる。カントは先づ人間の幕進的努力の跡は考へ深い觀察者の眼には悲痛な印象を與へる事を見出した。彼は云ふ。「我我は自分達の行動や放擲が大きな世界舞臺の上で演ぜられておるのを見るに屹度悲しみの感情の迫るのを禁じ得ないであらう。而して個個の場合にあつては恰惻然しく見ゆる物も最後に全體として見れば愚かさ、子供らしい虚榮と惡意、破壊慾等によつて織り離せられておるのを見出す」。

此想ひを抱いてカントは歴史をば如何に見やうとするのであらうか。彼は先づ歴史研究の方法から探求を初めねばならぬ。斯て彼は云ふ「人間と其行動との内には——之を全體として見れば——何等理性的な特自な目的をも豫想し得ないから哲學者は若しや自然界の目的が——此自然界の目的あつて初めて獨自の計劃なく行動する被創造物に於ても其歴史は自然界の既定の計劃に従うて可能なるのである——此人事の矛盾せる歩みの内に發見し得ないか否やを探求する外に何等の知り様がない」。

カントは斯る意味に於て歴史研究の猪口を求め様と思ひ、簡単に記述した九ヶ條の意味深い命題の内に其等を掲げた。次にカントは被創造物の自然的性能は自らを完全に且つ合目的に形成するに至る様規定せられておる物であるを考へた。然らば其は如何にしてか。即彼は云ふ。人間にあつては「彼の理性を使用する事を目的とする」諸能力は總ての個人に於てではなく唯種屬の内に於てのみ進化する。此所から今や最も重要な社會學的にして且つ歴史哲學的思想が生ずる。

之をカントは彼の第四の指導命題の内に次の如く述べておる。「自然が一切の彼の性能を完成させるに用ふる手段は社會内に於ける敵對關係 Antagonismus である。但し此敵對關係は結局に於ては其合法的秩序の原因となる物である。私は敵對關係をば人間の非社會的社會性で die ungesellige Gesellschaft der Menschen あると解する。即其は社會的生活に入らうとする傾向ではあるが、然かも此社會的生活から絶えず分離しやうとする一般的な反對傾向と結びつけられておる物である」。

カントは此點に於て人類進化の中心問題に觸れておると思ふ。彼の天才的な洞見に依つて歴史哲學の最深の問題はかくて把握せられたのである。何となれば社會と個人との相互關係は歴史の本質的内容を構成する物であつて此關係をば總ゆる方面に於て満足せしむ可き社會構造即個人本位主義と社會本位主義との完全なる綜合こそ歴史の最高の仕事であり且其到達點であるを指示する可きであるからである。然しながらカントは此敵對關係が如何にして人間の能力を發達せしめ益確乎たる社會組織に導くかに就いては極めて直覺的説明を下すのみであつた。カントは非社會的社會性を以て抑もの創始から人間性質の内に潜在する自己分裂と見做しておるが此は彼の先天性に對する偏愛に基づく物であつて此點に於て缺點なきを得ない様に思はれる。此自己分裂は實際は進歩の所産であつて時代の進行の内に多様な變化を経験しつつ進んで行くのではなからうか。兎に角文化生活の總ての領域に亘つて斯る變化の跡を追する事は今日歴

史哲學の重要な仕事である事は論を俟たない。論を少しく前に返して然らば此非社會的社會性から一の確乎たる社會組織換言すれば一の普遍的な且つ法律を執行する市民社會に至る必然性に關する彼の直覺的説明は何を意味するのであるか。此問題はカントにまつては最も困難な物であつたが彼は之を次に述ぶる指導命題に左の如く表白しておる。「されば我我は人類の歴史をば、一括して人類が其一切の性能を充分に發展せしめ得る唯一の状態としての内部的に且つ此目的の爲めには外部的にも完全な國意を現出する其爲めに、隠蔽せられた自然の計劃が完成せられて行く事であると思ふ可き」。

かくて彼は彼の歴史哲學的考察法が正當である事を示さむとして「一般の世界史をば人類に於ける完全なる市民的合一を目的とする自然の計劃に従て編せむとする哲學的企圖は可能な物として、又此自然の目的に對して有益なる物として見られねばならぬ」云つておる。

カントは斯くの如く歴史の意義と目的とは出来る丈け完全な國意の設立にある事を教へ、然して又此目的は歴史的發展をば反省する事によつて直接に促進せられ得可き事を説いた。一七九五年に出版された彼の「永遠の平和論」Zum ewigen Frieden に於てはカントは極めて明瞭に且つ美しく相互間の平和持續の可能性を提示し且つ自然は人類をば平和に迄創造し義務として課しておる事を示さむと努めておる。斯くの如く我我はカントの内に偉大なる歴史哲學的卓見と刺戟を見出すのであるが之等の思想は併しながら今日に至つて初めて正當なる理解と評價とを贏ち得るに至つたのである。

ヘルデルとカントの思想の上に立つたシルレルは彼の大學就職講義(一七八九)に於て又彼の著「人間美的教育論」Die ästhetische Erziehung des Menschen (一七九五)に於て價值多い歴史哲學的思想を陳べておる。彼はヘルデルと共に歴史の到達點を以て Humanität と見、又同時に人間は國家生活に於てのみ眞の人間に迄發達し得る。國家は其起原より見る時は必要からの產物ではあるが終には理性と道德性の機官となる迄進化せねばならぬ物であるを論じた。次に自然と理性とによる人間教育に於ては美と藝術とが極めて重要な要素をなす事を明にしたのはシルレルの最も獨自なる効績であつた。即人間は美的歡喜に於て初めて眞の人間となり兩種の活動様式の綜合が完成せらるるに至る。感性と悟性、直觀と思維、素材的本能と形式的本能、之等の一切は美的觀賞の内に融けて調和する。如斯藝術は道德性への進歩に對しては最も重要な意義を有し人類歴史に看過し難き役割を演じておる。故に藝術に對する正しき價值評價こそは將來の文化哲學に其基礎を提供する物である。シルレルは斯る思想をば彼の詩「藝術家」Die Künstler 及其他の詩及評論に於て再三述べておる。彼によつて植え込まれた美的教育なる思想は其以來嘗て人類の記憶から消え去る事はなかつた。

我我は次に順序としてフィヒテ、シェリング及其學徒等に見出さるる個個の歴史哲學的思想を考察するのを至當と考へるのであるが紙數の關係上直ちにヘーゲル迄飛んで其思辨的歴史哲學及其に伴ふて發生した他の諸傾向を檢察したいと思ふ。(未完)

詩學概論

關西大學講師 新町徳之

- 第一緒言
- 第二詩學概論の性質
- 第三詩學と他の科學との關係
- 第四詩の意義
- 第五詩の發達
- 第六詩の文化價值
- 第七詩の内容
- 第八詩の形式
- 第九詩の描寫
- 第十詩の分類
- 第十一詩の鑑賞
- 第十二結論

第一緒言

ふるい話でありますが鎌倉時代に前大僧正慈圓といふ天台座主が居た。この僧正は後に慈鎮和尚と諡せられた善智識で一山貫首の身でありながら釋門の第一義諦をも忘れむ許りに歌嗜きでしたのでその弟にたしなめられましていふこゝであります。がその時に皆人の一つの癖は在るぞよ我には許せ敷島の道

さいふ歌を以て歌癖を辯解したこゝがあります。それから江戸時代に例の磊落な與謝蕪村が假名遣の面倒臭いのを笑つて梅さきぬざれがうめやらむめぢややら

ミ吟したこゝは誰も知つてゐるこゝなので

咲いた櫻になぜ駒つなく駒が勇めば花が散る

これは同じ江戸期の去るなんごみなき人の都

都逸。明治の大御代になつて誰やらがぬしは上等、私は下等、人が中等(中途)で邪魔をする。

これは俚諺正調さかいふものだ。

夜久毛多都、伊豆毛夜幣賀岐、都麻基微爾、夜幣賀岐都久流、會能夜幣賀岐哀。

これは申すも畏い神の御歌。

白銀の目貫の太刀をさけ佩きて奈良の都をねるは誰が子ぞ、ねるは誰が子ぞ。

これは神樂歌で御座います。催馬樂歌には此殿は宜も富みけり、三枝のあはれ、三枝のあはれ、三枝の三つ葉四つ葉の中に、殿造せりや、殿造せりや。

次は佛足跡の歌をあけます

御足跡つくる石の響は天に到り地さへ揺すれ父母がために。諸人のために。

これは佛足跡歌の體に申して五句三十一音の短歌に更に七音の第六句を小字に書き添へたもので奈良の西郊なる藥師寺境内に立つてゐる佛足跡歌碑に刻したもので原物は漢字で一

字一音の表音式に書いてあります。

此間に草刈る小子しかな刈りそね、在りつ

つも君が來まきむ御妹にせむ。

こは旋頭歌です。さてその次は高山波、雲根火雄勇志等、耳梨與、相諍伎、神代從、如此爾有良之、古昔母、然爾有許

會、虛蟬毛、嬌乎相格良思吉。

こは長歌で御座います。こんな工合に無秩序に日本の詩を列舉しました後に漢詩や西洋詩

やを書き添へまするこゝに臆氣ながら詩に關する一般の觀念が得られて何時しか詩を耽

讀する癖や詩を苦作する癖が出来て参ります。この讀詩と作詩とが永らく繼續します

こやがて慈鎮和尚の跡取り氣分になつて蕭洒な表釘をこらした詩集を出版するようになります。それから詩集また詩集で一角の詩人になつて世間にもはやされるこゝに段取りになり進んでは時折その暇に詩話、詩論、歌話、歌論を試みるようになって詩に關する理解は深く博くなります。「詩學概論」はかかる詩的境地にある人によつて説かるべきもので私風情のは込ても人前に出せるようなものではありませぬ。が併しそれを平氣で出しますのは矢張り我には許せ敷島の道といへるからでしょう。

第二詩學概論の性質

「詩學概論」は文學概論の一分科であつて詩に關する一般的觀念を研究する文化科學だに定義することが出来ます。今この定義を分析して説明しまするこゝ自然に詩學概論の性質は明瞭になりましょう。

一。「詩學概論」は文學概論の一分科であるこゝ。「文學概論」は時の古今を論ぜず、洋の東西を問はずに有ゆる文學の基礎的問題を考察し文學をば何處までも人間性の表現として觀照し文學をその展開の相の下に眺めんとするこゝを其任務とするものであります。簡單にいへば文學とは思想感情をば文字言語で表現したもので藝術の一つであるこゝにしましう。そうしてその思想感情をば律語の形式で表現したものが韻文即詩であり否らざるものが散文であります。韻文即詩のこゝを人によるこゝ感情文學又は純文學といひ散文のこゝを思想文學とか知識文學又は實用文學などいひ居ります。純文學は力を與へて感動させるものであり思想文學は智を與へて受納さ

るものである。この詩と散文とは實に文學の二大分類であつてやがては「文學概論」の二大問題となるのであります。この二大問題は

この文學にも何れの時代の文學にも必ず附き纏つて居りました文學研究者の頭腦を刺激して居ますこゝは「世界文學史」の證明するこゝで御座います。尤もこの二大問題はしかく截然と明瞭に分類するこゝは不可能のこゝで唯、文學研究の必要上、方法的に分けたる便宜分類たるはいふまでもない。我が「詩學概論」はこの二大問題の一つたる韻文即詩に關する一般的觀念を研究するものでありますから取りも直はさず文學概論の一分科であるこゝに歸着します。だからして「詩學概論」の有ゆる問題たる詩學の性質詩の意義、詩の發達、詩の價值、詩の内容、詩の形式、詩の描寫、詩の分類、詩の鑑賞等を叙述したり研究したりする方法手段は一に「文學概論」の叙述法「文學概論」の研究法に待たなければならぬのは勿論であります併し一方から觀察しまするこゝ科學分化的理法によりまして「詩學概論」が「文學概論」から分化したる以上は「詩學概論」固有の性質から流れ出づる獨自の研究法がある譯だに存じます。それでこの獨自の研究法によりまして「詩學概論」を研究しました曉に得たる結果はやがて「文學概論」に有力なる示唆を賦與しまして向上的に「文學概論」の内容を更新するだらうと思ひます。が併しこれと反對に親たる地位にある「文學概論」の研究が新に展開しまして向下的に子たる地位にある「詩學概論」に示唆を賦與するこゝも有り得るこゝであります。畢竟はこの兩者は相互に影響し合ふこゝに

に歸着いたします。

二。「詩學概論」は詩に關する一般的觀念を研究するものである。即ち「詩學概論」は斯學研究の對象たる詩の意義、發達、その價值、その内容、その形式、その描寫、その分類、その鑑賞等に關する概括的觀念を得しむるを以て其使命とするものであるからその範圍は頗る廣汎に亘り有ゆる文化科學と自然科學とに交渉を持つて居ります。が併しその研究は何處までも概括的原則的で敢て詳論細説を要しませぬ。で「詩學概論」の研究が展開しまして或る特種の問題につきて深刻にその理解を要請しますならばその要請に順應しましてその特種問題の研究を試むることは豫じめ「詩學概論」の豫想する所でありますが併しかかる特種問題は多くは「詩學各論」の研究問題となることであつて我が「詩學概論」はそこまでは手を擴げる譯に参りませぬ。何處までもその使命を畏こみその範圍を守つて詩に關する一般的觀念を研究するものであるといふことを與吳も忘れぬことが肝要であります。そうでないさ皮肉屋が飛び出して詩學は哲學ではない乎といひかねないのであります。

三。「詩學概論」は文化科學の一つであること。文化科學とは「クルツール、ウイシエンシヤフト」の謂ひで自然科學(ナツール、ウイシエンシヤフト)に對するものであつて文化價值をもつてゐる科學體系の一つであるといふことです。さればその文化科學としての「詩學」の性質は美の規範科學たる「美學」に酷似して居りますといふべきであります。で「詩學」の要請する規範は殊に之を詩的規範といひまして詩の文化價值の標準となるべきものであり

ます。この意味で「詩學は詩的規範を定立することを目的とする文化科學である」といひ得るのであります。

第三 詩學と他の科學との關係

活眼を開いて人生や自然を透觀いたしまするならば渾べてこれ詩といひ得ると思ひます

世の中は三日みぬ間の櫻かな。

世の中を何に譬へん朝ひらき漕ぎ行く船の跡なきが如こ。

世の中は何か常なる飛鳥川昨日の淵は今日の瀬なる。

世の中は何のへちまと思へんもなかりしとは暮されもせず。

これ等の詩は人生を歌つたものである。春水は四澤に滿ち夏雲は奇峰多く秋月は明輝を揚け冬嶺孤松秀つる四季や自然を吟じたものには

春の野に莖つみにこ來し我ぞ野をなつかしみ一夜ねにける。

夏の夜はなほ宵ながらあけぬるを雲のいつこに月やぎる蘭。

田子の浦や打ち出てみれば眞白にぞ富士の高根に雪は降りける。

荒海や佐渡に横たふ天の川。布團きてねだる姿や東山。

ほこぎす杜宇にて明けにけり。漢詩はぬきにして次に洋詩二三首をあけます

駒 鳥 ウーヴス(平田氏譯)

うちの父やが蹴こつて土をかへせば駒鳥が来る。可愛い小枝にこうまつて可愛い歌をうたひます。

× × ×

若し樹が近くにない時は

鳥は獨りぢや居なくつてみんなの側にやつてきてお石の上で踊つてゐる。

The Robin

When father takes his spade to dig,

Then Robin comes along;

He sits upon a little twig

And sings a little song.

Oh, if the ore rather far,

He does not stay alone,

But comes up close to where we are

And bobs upon a stone.

童謡のような親みのある作でしょう。

まろろみ モンヘルト(佐山氏譯)

靜かに雪がふつて來る地の上に靜かに雪がふつて來る胸の上にやがて雪は積つた。

× × ×

ア、美しい疲れた君若いをんなよ。

× × ×

ア、白い霧に紅い日は夢をみるもえる胸は霧につつまれて倦み果てて輝き互る

いまははや息みたいもの眠りたいもの。

× × ×

ア、美しい眠らう若いをんなよ。

Schlummerlied

Leise fällt ein Schnee auf das Land.

Leise fällt ein Schnee auf das Herz. Bald sind wir zugeschnitten.

Wie Schön du müde bist!

du junge Frau!

Und rot in weitem Nebel träumt die Sonne,

im Nebel ein feurig Herz.

Es hat sich müd gegläntzt, das hat sich müd geliebt.

Nun will es ruhn; und Schlafen.

Wie schön du schlafen wirst,

du junge Frau.

落 葉 イェーツ(厨川氏譯)

秋が來た吾等にはなつかしい木の葉も、黄ばんで色づいた。

麥の束の上を行く鼠の毛色さへ變つて來た。

頭上のななかまぎの樹葉も黄いろく。濕めつた野いちごの葉も黄いろになつた。

戀の衰へる時が吾等に迫つて來る。君と吾とふたりの悲しい心は今倦み疲れた。

別れよう、情熱の盛期が吾等ふたりを忘れて了はないうちに。

そしてうなたれてゐる君の額に一度のキス

The Falling of the Leaves

—

II

(Yeat)

次は「詩學」と「論理學」この關係であります。

「詩學」はまた「社會學」に親密な關係をもつてゐます。詩學が文化科學である以上は「文化

「心理學」も亦「詩學」と關係してゐます。申す

第四 詩の意義

先づ日本の詩、即ち大和歌なるものの意義如何をいふに

支那に於ける詩の意義如何と見まするに夙く「尙書」の舜典に

詩言志。歌永言。聲依永。律和聲。
それから「詩經」の大序には

詩者志之所_レ也。在心_ニ爲_ニ志_一發_ニ言_一爲_ニ詩_一。情動_ニ於_中而形_ニ於_言。言_レ之_レ不_レ足故嗟_ニ嘆_一之_レ不_レ足。故永_ニ歌_一之_レ永_ニ歌_一之_レ不_レ足。不知_ニ手之舞_一之_レ足之蹈_一之_レ也。

「禮記」の樂記には

詩言^ハ其志^ヲ歌^フ咏^ス其聲^ヲ舞^ス動^ス其容^ヲ。
 御座います。志といひましたのが貫之の所
 謂、人の心にあたり、言といひましたのが言
 の葉に似てゐるようですがこれはいふ迄もな
 く支那の方が先きで貫之は或は之から示唆を
 得たものでありましょう。支那には詩話とい
 ふものがあつて日本の歌話、俳談と共に「詩

學」の有力な資料となつて居ります。

て模倣し、その著「詩學」の初に「敘事詩、悲劇及び笛、琴の音曲はそれ等形式の多くはその一般的觀念に於て悉く模倣の様式である」といつてゐるが未だ詩の意義をつくしたものでない。「ミルトン」は詩を以て單純な感覺衝動をなし、「コールリッチ」は詩は最善の序次

(第十九頁へ續く)

學
內
報

學部變更の件認可

本學學部が從來包含してゐた法律學科、政治學科、經濟學科、商業學科の外に更に文學科を設置し、以て一層綜合大學たるの實を擧げんとの希望は豫てから本學關係者の均しく抱くところであつた。本學はこの目的を達成せんために、從來の法學部を法文學部に改め、既設の法律學科及び政治學科と共に文學科を併設することとし、文部當局に認可申請中であつたが、去月二日附を以て認可せられた。因に右文學科は更にこれを哲學專攻科と英文學專攻科とに分ち、何れも來る大正十七年度から開講する豫定である。

社會科學研究會第十三回例會

本學專任教授講師に依つて組織されてゐる社會科學研究會では、その第十三回例會を去月十三日午後二時から、千里山學舎内教授室に於て開催した。定刻左記會員出席、當日の研究發表者辰巳經世講師の「ナイル河と埃及文明」に題する約一時間に亘る講演があり、後該題目を中心として會員間に種種のディスカッションが交へられ、四時半頃閉會した。

卒業及修了試験終了

本學學部及び専門部卒業試験並に大學豫科及

び専門部豫科修了試験は左の通り終了した。

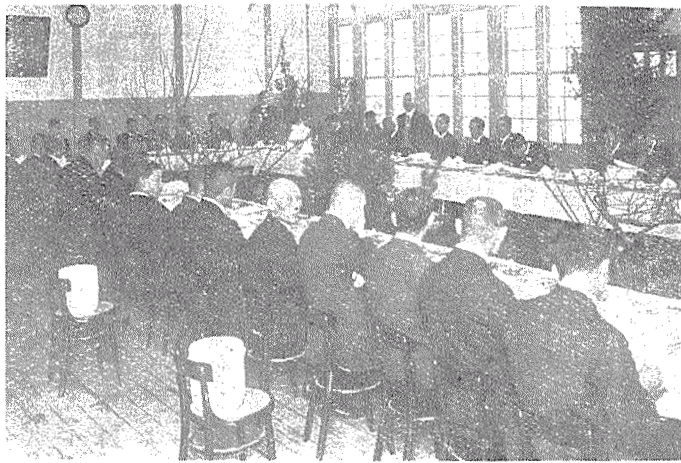
學部各科共
二月十七日

專門部各科共
二月二十四日

大學豫科
二月二十五日

專門部豫科
二月十八日

府下中等學校長及び英語科擔任教諭懇談會



第三學期授業終了

本學年度第三學期授業を左の通り終了し、何れも引續き學年試験を施行した。

學部第一、二學年
二月二十七日

大學豫科第一、二學年 二月二十七日

專門部第一、二學年
二月七日

專門部豫科第二學年 二月七日

第二商業學校
三月七日

本學主催府下中等學校長及び
英語擔當教諭各位懇談會

各種中等學校と上級學校、殊に高等學校又は大學豫科との間に、訓育上及び教授上に於て適當なる連絡が取られることは、當に望ましいことであるばかりでなく、寧ろ甚だ緊要事であると言はなければならぬ。

この種の必要を充すため、本學はその最初の企てとして、先づ大阪府下の中等學校長及び兩者何れに於ても最も多くの時間が費され、又最も必要な科目とせられてゐる英語科の擔任教諭諸氏を、去月二十八日本學千里山學舎に招待して、同日午後三時から本學大學豫科英語擔任の教授講師諸氏と一堂に會し、主として英語教授に關し懇談を交へる會合を催した。定刻左記約三十校五十氏の出席を見、一同記念撮影の上會場に當てられた學内食堂

事は本學側を代表して遠路多數の來集を得たことを謝し且つ訓育及び教授その他苟くも教育上の參考に資し得べき事柄に關し各位の忌憚なき意見の發表を希望する旨述べ、最後に、恰も千里山附近一帶の梅林が満開のことに、豫想してゐたが遺憾にも未だその時期に至らなかつたので、切めてもの志に學庭の梅樹二三株を切つて會場に移し以て梅園を髣髴せしめることにした旨附加すれば、これに對し北野中學校長江崎誠氏は來會者側を代表して挨拶を述べ、本學の款待——特に右梅林を模した會場の趣向に對し、その昔鉢の木を焚いて客を搞つた佐野源左衛門の物語を憶ひ起し切に床しく感ずる旨述べ、最明寺ならぬ自分達には他日これに酬ゐるよすがは見出せさう

もないが、少くとも時頼の氣持を以てこの好意を受くるものであると、所謂「鉢の木」の史實を引いて深く謝するところがあつた。

次で高津中學校長三澤糾氏を初め、來會者諸氏は各自自己紹介を兼ねて所見を吐露し、尙ほ態當會のために出席せられた英文大阪毎日副主幹加藤直士氏の所感、本學講師坪内士行氏の講演等もあり、暮色既に千里山一帶を包む午後七時半頃未曾有の盛會裡に、この最初の、且つ極めて有意義なる會を閉じた。因に當日の出席者諸氏の間に府下中等學校の英語科教員を網羅する英語研究會でも云ふべきものの成立を要望する意見が多少あつたので、且つかくの如き會の存在は上級學校の同科擔當者の立場から見ても非常に望ましく、本學側に於ても大いに賛同するところであるが故に、互にこの種の會の實現に協力する旨打合すところがあつた。

出席學校名及び出席者芳名（順序不同）

學 校 名 校	長	英語擔當者
鳳中學校	岩崎繁雄氏	松下市太郎氏
豐中中學校	代松岡藤太郎氏	林眞英氏
住吉中學校	元田龍佐氏	上田義雄氏
茨木中學校		尾池虎三郎氏
生野中學校	生田鹿之助氏	竹内清海氏
北野中學校	江崎誠氏	
市岡中學校	石原定孝氏	東幾之助氏
天王寺中學校	小林吉人氏	手島恭三氏
高津中學校	三澤糾氏	菅沼敏雄氏
今宮中學校	三浦菊太郎氏	隅田虎市氏
上宮中學校	代阪田増太郎氏	沖正次氏
富田林中學校	三宮元勝氏	淺井覺一氏
岸和田中學校	落合保氏	黑髪萬太郎氏
桃山中學校	ジー・ダブリュ・ローリングス氏	古屋庄三郎氏

堺中學校 守 十 夏氏

四條中學校 代平 尾 平 吾氏 川 合 友三郎氏

明星商業學校 代芳 野 啓次郎氏 福 永 純氏

大倉商業學校 代植 原 安 松氏 堀 内 喜 藏氏

成器商業學校 代中 山 種次郎氏 阪 井 喜 夫氏

東商業學校 飯 野 俊 一氏 多 賀 義 雄氏

中外商業學校 千 頭 民 衛氏 齋 藤 三 郎氏

天王寺商業學校 代前 田 莊 一氏 山 中 寛次郎氏

關西甲種商業學校 垂 水 善太郎氏 後 閑 宣太郎氏

大阪貿易學校 佐 藤 一 造氏 栗 野 壽三郎氏

市岡商業學校 藤 田 文 一氏

大阪商業學校 代高 橋 佳十郎氏

尚ほ明星商業學校教諭 ジュー・エッチ・グー

テ氏も出席せられ、本學側では宮島事務理事、

木下幹事、村上教授、櫻井教授、佐佐講師、

坪内講師、樋口講師、松田講師等の諸氏が出

席した。

本學新學長決定

巖に織田萬博士が國際司法裁判所判事として歐洲に赴任するために本學學長を辭任せられて以來、これに代るべき適任者を物色中であったが、今回理事會に於て、貴族院議員、法制審議會委員、法學博士松本蒸治氏を新學長に推舉することに決し、同博士に懇請したところ、幸に快諾せられ、來る二十日の卒業式にも出席せらるる筈である。因に同博士は明治三十三年に東京帝國大學獨法科を出で、農商務省參事官、東京帝國大學教授、法制局參事官、南滿洲鐵道會社副社長、法制局長官等を歴任して今日に至つた人である。――詳細後報――

校友の面影

▲辯護士 遠部逸太郎氏▼ (明治三十九年法律學科出身)

岡山縣吉備郡管谷村の片田舎に我が遠部逸太郎氏は其少年時代を過して居つた。ある時――明治十八年生れの氏が小學校の生徒であつた時代だから多分日清戰爭前後でもあつたらう――此村に地方の裁判官がやつて來て小學校で法律の講話をしたことがあつた。其の理屈っぽい話の内容がさう程度まで村人に理解されたかは兎もあれ頑固な少年の氏は大きい聴衆に交つて熱心に聞き耳を立てて居た。



遠部逸太郎氏の近照

春秋幾度、かつての少年は今世界の商工都市たる大阪の一角に敏腕の辯護士として押しも押されぬ地位を築き上げてゐる。『矢張り感奮したのでせうね、はつきり覺えてはるませんが「裁判は天皇の名によつて行ふ」なご云ふ言葉に妙に惹き付けられまして、何でも一つ裁判官になつてやらうと思つてゐましたつけ、……親父は醫者にするつもりでゐたのですが……』

から判事に轉じ之は大分長い間やつたやうに覺えてゐます。困つたのは大正三年に拔擢されて大分へ豫審判事として赴任した時でした。何分あの地は昔から政爭の激しいところであつたので、面倒な選舉違反事件なんかありましてね……辯護士になつたのは大正四年、別に深い理由があつたのでもありませんが矢張り官吏として服務規定や何やに縛れるのをいやと思つた位なのでせう。併し司法官の経験は一度あつてもよいものですよ、特に若い方にはおすすしめし度く思ひます。そのわけは司法官の念をすることは唯正義のみで如何なる富も

近頃人が増えましたからこれからやらうとする人達には骨も折れませうが、以上の信條を以て進めば恐るるに足りません。私も此主義の下にやつてゐますがやつて見るに實際問題が多くてとても政治なんか關係してゐる暇はありません。一時勸められたりしましたが思ふところあつて唯業務に専念してゐる次第です」

『それから近頃感ずるのは今日の我國の民度に於いては何と云つても法律智識の普及が急務だ云ふことです。我我法治國の臣民にまつては日常生活いづれも法律と關係を有つてのですから、獨り官吏や法律家のみでなく一般實業家其他の人人も法律について一隻眼を備へて置くことはさうしても必要です。大阪の實業家は算盤を弾くことにかけては随分抜目がないが、法律の知識がない爲めやつた後を見るに矢張りそこが抜けたところがある、時にはよくこんなことで間違が起らないものだに怪む位です。殊に普選なんかが實施されるに資するに必要は益痛感せられませうから、此意味から云つても關西大學のやうな有力な教育機關が益發達して法律知識の普及に資するに云ふことはお互に何よりも喜ばしく思ふところで此度は又立派な學長が定りまして御同慶の至です……』

氏の面目のアウトラインは大體氏の言葉に依つて察せられるであらう。筆者は唯氏が尙小説、文學書等にも始終目を通し理に固り易い頭腦を常に軟み温さを以て調和しつつあること、阪急沿線豊中に幸福な家庭を営んでゐること、さうつけ加へやう。其上の氏に對する價值判斷は寧ろ讀者諸君に任すことが適當であるからである。

聰明を表徴した面長なそして上品な顔、長く美しうひかれた眉、思ひなしが目元が少し黒ずんでゐるやうであるが尙ほ魅力を失はぬ黒い眼、ギリシャ型の格好のよい鼻、締りのよい口元、其れにイタリー婦人によく見るこぼれるやうな黒色の髪、これ等は、相集つて、たしかに南歐型の美しき一女性を畫きだしてゐます。しかし、今日の彼女を、「美」と言ふ

形容詞中に見出さうとする、或ひは彼女の性質を見失ふ恐れがありますまいか。單的にいへば彼女は聰明であります。すらりとした丈、やや瘠せて見える肉は、爛熟した女性の美さいふよりも、むしろ、聰明な家庭の主婦さういふ方が、より適切でございませう。その片手に抱かれた男の子は非常に可愛ゆく、よく肥つた無邪氣な顔さ、鳩のやうなその眼さは、特にわたくしを喜ばせました。若い母親に勧められて、わたくしの方に小さい手を出し、やや耻しさうに、低いイタリー語で「今日は」申しました。わたくしは、その小供をヴェランダにつれだし、植木鉢などが澤山置かれてゐるなかで、かれの寫眞を一枚撮しました。寫眞を撮すまへ、母親は、急いで室の中から一つの罌の廣い帽子を取りだして来て、その小供にかぶらせました。笑ひながら、「これはファシストの帽子ですよ」母親は説明された。

それから、室内に引きかへして、着物を着換へられたパンタレオニ教授のお寫眞一枚さ、小供を抱かれた令嬢のお寫眞一枚さを撮しました。『これで、パンタレオニ家の three generations をわたくしのカメラに入れたわけです』と、わたくしは教授に申しました。

教授さ令嬢さが打揃つて、わたくしの前に並ばれるさ、そこに、性の相違、年齢の相違こそあれ、親子の血縁上の争はれぬ連鎖を示す類似が、強く二人の顔や姿に出てゐました。パンタレオニ教授は、寫眞に撮される瞬間にも、なほ巻煙草さマツチさを、手から離されませんでした。

二

『突然妙なことを伺ひますが、イタリー大學でも、「所謂學閥」(academic cliquism) ないふやうな學者間の黨派關係がございませうか。たゞへば、ローマ大學の正教授になる人は、ローマ大學の卒業生に限るさいふやうな、あるひは、ローマ大學で私講師をつとめた人でなければならぬさいふやうな關係です。他の貧弱な大學の卒業生でも、力倆さ手腕さへあれば、今日のイタリーに於て最高學府中の最高學府であるさ認められてゐるローマ大學の正教授の位置にも進むことが出来るでせうか』。

寫眞器械の整理をして、再びストローウの前に位置を占め教授さ對座したさき、わたくしは、着物を着換へられたパンタレオニ教授に、こんな奇妙な質問を發しました。これは確かに奇問でせう。あるひは、愚問であるかもしれせん。しかし、イタリー大學の觀察、特に大學制度の調査さいふやうな重い使命を關西大學から命ぜられて來てゐるわたくしは、だれか適當なイタリー大學教授に逢つて、この點を質しておく必要を感じてゐたのでした。いかなる時代、いかなる場所においても、同類意識に基く親和傾向の一具現である『閥』の發生は、到底避け得られない宿命的社會現象

でございませう。『學閥』さいふのは、つまり、學者相互間の同類意識に基く結合傾向でございませう。ですから『學閥』さいふのも一種の宿命的現象でございませう。しかしながら、わたくしが、何事にも遠慮のない御意見を發表してくださるパンタレオニ教授から聴かして貰ひたかつたのは、イタリーにおける『學閥』は、一體、如何なる種類の學閥であるかといふ點でした。

わたくしが、三年前伯林にゐました時、畏友〇君が一日私に告げられた言葉が、今だに耳に残つてゐます。『リッケルト教授(Rickert)が草した、恩師ウインデルバンド教授(Windelband)の追悼録のなかに、獨逸學界における反猶太人閥の横暴を憤慨し、恩師のやうな偉大な哲學者を、伯林大學が迎へなかつたのは、反猶太人閥の偏見に基くものださ書いてゐた。獨逸でも一種の學閥があつて、喧ましいらしい』。宗教を同じくし、民族を同じくし、風俗習慣を同じくする者達が、同類意識に基く一種の親和關係をつくり、同類結合、異類排斥を、學者間で實行するのも、一種の『學閥』であります。これは、歐大陸の學界によく見る學閥ださうですが、幸にも、日本に於ては絶対に發見し得ない種類のものであります。

それから、ある一つの大學に教授さなるに必要の基本條件は、その大學の卒業生でなければならぬさいふことがあります。其の大學の卒業生が、母校の教授になるさいふのは、『出身校の同一』さ言ふ紐帶による同類意識の發展、すなはち、一種の『學閥』であります。この種の『閥』を普通學閥さいひ、世界到るさ

ころの大學において發見する類型的なもののやうです。日本の官立大學の如きは、この種の學閥意識が極めて濃厚であり、その閥的體制がよく完備してゐるさこゝにおいては、恐らく、世界一であります。

イタリー大學における所謂學閥の種類如何、これを今、わたくしはパンタレオニ教授に質したのでございませう。

パンタレオニ教授は、相變らず、巻煙草の煙りで、その邊りの空氣をたへず濁しながら、この奇妙な質問に對しても、例の如く、詳細にしかも明快に、答へてくださいました。

『イタリー大學にも『學閥』はあります。しかしイタリー大學の學閥は、本當の意味の Academic Cliquism です。すなはち、研究態度の相違、換言すれば、學派(School)の相違です。他の歐洲諸國の大學によく見受くる猶太人對基督教者の學者間における軋轢の如きは、學問上の争を原因さしてゐるものでなく、民族の相違に基くそれですから、むしろ、學界における民族閥の争闘(The Struggle of racial Cliquism in the academic world) ンでも形容すべきものでせう。かやうなものは、正しい意味の學閥さいふ名に價ひしません。さこゝろが幸にも、イタリー大學には、この種の忌む可き學閥は、あまり露骨に顯はれませんが。たゞへば、あなたが面會せられ、そしてあなたを私に紹介されたルツァチ教授(Luca Luzzati) のさきには、猶太人の血統を享けた學者です。しかし、八十二歳の今日にいたるも、なほ、ローマ大學憲法學正教授であり、上院議員であり、そして五度國務大臣となり、一度は、首相の印綬を帯びられました。その

ローマ大學における勢力の強大なことは云ふまでもなく、イタリア學界の大立者として、一般から認められてゐます。わたくし自身も、猶太人の祖先をもつてゐる一人ですけれども、今日まで、猶太人なるがゆへに、特別の取扱や、差別待遇を受けた覚えはすこしもありません。わたくしの尊敬する學敵トリノ大學のローリア教授 (Achille Loria) も、同じく猶太人の血統を承けてゐる人です。それでも、ローリア教授は上院勅選議員であり、且つ、トリノ大學の重鎮であります。これ等僅か二三の例證を以てみましても、學問と何等の關係のない民族的意識が、學閥構成の基礎となるやうな、忌むべき現象は、イタリア學界ではあまり存在しません。この點で、イタリア學界は、まことに幸福であるといへませう。

『第二の意味の「學閥」、すなはち、ある大學の卒業者が、母校の教授團を獨占して、他の大學の卒業生を絶対に排斥するといふ傾向は、この國の大學にもすこしは、あるかも知れません。學園を同じくした同窓生達が、特別の親しみを感じて、相接近するといふのは、人間の持つ人情ですから、そんなものが絶対にないとは申しません。しかし、これから説明いたしますやうに、イタリアの大學制度で、大學教授の採用方針が、他の國とすこしばかり趣きを異にしてゐますから、第二の意味の「學閥」もこの國には、さほご、濃厚ではありません。』

ここで、バンタレオニ教授は、詳細に、イタリア大學の組織とか、大學教授の採用方針とかを説明してくださいました。それは、わたくしにきりましては、この上もない貴重な大

學制度の調査資料でございました。其處で、ここに、バンタレオニ教授の御説明の大意を、記述いたし、御參考に供したいと希望いたします。

一言にしてつくせば、イタリアは官學萬能の國でございます。今更ら、地理を説明するまでもありませんが、イタリアを構成してゐる

第二回近衛中等學校英語雄辯大會——その一



壇上に立てるは一等受賞者中川達市君前略記事参照

領土は、イタリア本土、シチリー島 (Sicily) ミ、サルデニア島 (Sardinia) などであります。イタリア政府は、十七個の文部省直轄官立大學、五個の文部省監督公立大學を、この領土内に調和よく分布してゐます。イタリアの官立大學は、原則として、法學部、醫學部、

理學部、文學部の四學部を以て構成する、所謂綜合大學制度を採用してゐますが、只例外として、ある小さな大學には、日本の私立大學のやうに、法文の二學部だけで構成することを許してゐます。公立大學は、概して貧弱で、綜合制を採用してゐる大學もありますが、なかには、ミラノ市立商科大學のやうに、單に商學部だけの單科大學もあります。官立商科大學 (或ひは高等商業學校とも譯すべきか) は、イタリア全體に七個ありますが、これは商務省の管轄らしく思はれます。その制度は、文部省直轄の官立大學と略略同様で、教授、學生、及び卒業生の待遇も略略平等であります。

十七個の官立大學には、官制上、甲乙等の差別は、絶対にありません。講座數、正教授の員數、教授、學生、及び卒業生の地位等は、略略平等であります。この大學を卒業しても、同一の特權を有する學士號が授與されます。昔の日本のやうに、學校名のついた學士號といふやうな、目立つた差別待遇などは絶対にありません。この點は、公立大學でも同じやうであります。

しかし、何と言つても、各各の大學が有する過去の歴史、教授の顔振、學生の數と質、卒業生の勢力等によつて、いつの間にか、官制上は平等である可き各大學の間に、それぞれ、聲價を基礎とした一種の「等級」(gradation) が出来てきました。日本の官立大學においても、東京、京都、九州、東北の四帝國大學が、官制上では、絶対に平等であつても、事實上では、其の間に若干の等級がつけられてゐるのと同じ現象です。また、日本における府縣の

地位が、官制上では、全部平等であつても、事實上は、其の間に、一等縣、二等縣、三等縣といふやうな、等級がつけられてゐるのと同じ現象です。

この意味で、イタリア官立大學の Gradation を定めることができましたならば、略略、つぎに掲げた表のやうなものが出来るでせう。

第一流。ローマ大學。トリノ大學。ナポリ大學。ボローニャ大學。

第二流。ゼノヴァ大學。ピザ大學。パドヴァ大學。モデナ大學。パヴィア大學。パルマ大學。

第三流。カリアリ大學。カタニア大學。メシナ大學。パルマ大學。ササリ大學。シエナ大學。マテラ大學。

(イタリア官立大學の名稱は、こゝに、ごく、大學所在地の都市の名を採用してゐます。この點は、歐洲全體を通じて見いだすところでもあります。日本の東北大學、九州大學、關西大學のやうに、廣い地域を示す名稱の大學は、歐洲にはほとんど見あたりません)

右のうち、ローマ大學が、第一流大學の筆頭として時めいてゐるのは、ドイツにおけるベルリン大學、フランスにおけるパリ大學、と同じやうに、一國の主都をその背後に擁し、且つその教授團に、イタリア學界の最高權威ばかりを、網羅してゐるためであります。つぎに、トリノ大學は現イタリア王家の本據であり、且つ北部イタリアの主都であるトリノ市を、その背景としてゐるからであります。そのつぎに、ナポリ大學は、イタリア第一の良港であるナポリ市に位置し、且つ大學

として光輝ある長い歴史を有するためでありませう。最後に、ボローニャ大學は、都市としては、あまり大きいことはありませんが、歐洲最古の大學としての光榮ある歴史を有してゐるからでありませう。

兎も角も、大學の官制上では平等であつても、實際には以上述べたやうな區別が、いくらか存してゐることは確かであります。そこで、高等學校を出た若い學生達が、なるべく、評判のよい、歴史のふり、そして卒業生に教授の有力な第一流大學に、笈を負はうとするのは、この國も同じく自然に生ずる現象であります。しかれば、イタリー大學の卒業生にして、學者を以て世に立たうとする者は、只、母校にのみ教鞭をさらうとする強い傾向があるか、或ひは、第一流大學に向つて競争する強い傾向があるかの質問がでるでせう。

これに對しては一概に答へることは出来ません。何故か云ふに、それは、イタリー大學における教授採用の方針が、他國のそれとはなはだしく異なつてゐるからであります。假りに、ここに一人の好學の青年があつて、

日本の東京帝國大學に比すべきローマ大學のある學部を、拔群の成績を以て卒業したします。更らに、かれは、在學中黨陶を辱ふした諸教授の學者としての生涯に、生存の意義を見だし、それ等の學界の先輩のあみを、忠實に追はうと決心したといたします。また、

ローマ大學の諸教授達も、かれが有する學究としての素質の豊かさを、等しく認識したといたします。かやうな場合、かれが若し東京帝國大學の卒業生ならば、この種の青年は、忽ち特選給費生となつて大學院に入り、さらに

同大學の助教授となり、官費在外留學を濟ますやいなや母校の教授となり、一日こいへも外の大學の空氣を吸はないであらう。ところが、イタリーの大學卒業生は、日本の官立大學卒業生のやうに順調には行きません。かれは、日本の行政官や司法官におなじく、しばらくは旅稼ぎをせなければなりません。

第二回近畿中等學校英語講習大會——その二



賞品及び記念品授與前號記事参照

ローマ大學のある學部を優秀の成績で卒業したとしても、かれは先づ母校の私講師として採用されれば、またさない幸福である。高等學校の教師となり得れば、特に撰ばれた方である。減多にはないが、若し第三流大學の正教授として拔擢されれば、無上の光榮であり

ます。が、イタリー大學の私講師は貧弱でありますから、私講師になるのはあまり面倒ではありませんが、たゞ其の格は第三流でも、官立大學の正教授に採用されるには、非常に面倒な資格が入ります。その面倒な資格といふのは、論文、著書等で示した其人の學力であります。

假りに此處に、官立大學とはいへ、法學部丈けで構成し、僅に十一人の正教授を有するに過ぎないマテラ大學 (Università di Matera) のやうな、貧弱極まる三流大學の正教授に、一人缺員が出来たといひます。

その場合、この大學は、その正教授候補者を、廣くイタリー全體から募集します。ところが、不思議なことに、その應募資格として、身分的なものは何もありません。現に教職にある人、たゞへば、大學の私講師であらうが、

小學校、中學校、若しくは高等學校の教員であらうが、學外の人人、たゞへば、新聞雜誌記者であらうが、その他無職の人人であらうが、それこそわれと思ふ人人は、應募することが出来ます。その應募の願書には、應募者の履歷書と同時に、その人が、これ迄社會に發表した論文、あるひは、著書の目録を付して提出し、教授に缺員のある講座の正教授として任命せられた場合、充分その任を完ふし得るだけの學力を有することを證明せねばなりません。この場合には、其の候補者が、

一流大學の卒業生であるといふことも、あるひは、缺員ある大學の卒業生であるといふことも、採用の必須要件ではありません。この場合、採否決定の主要條件となるのは、其人

が過古に發表した學術上の業績だけでありま

す。かくして應募した候補者達の中から、その大學の教授會は、適任者と思ふ者三人を、第一候補者として選り、意見をなして文部省に申達します。文部省當局は、その中の一人を採用して正式に任命するのです。そして、其の選ばれた最後の一人が、漸く三流大學の正教授といふ椅子を獲得するのであります。

この好學の青年が、若し三流大學の正教授となることが出来れば、かれは益々學問に精進努力して、さしづし研究を發表し、二流大學の正教授たるべく、好機會の到來するのを待たねばなりません。この際も、彼の學問上の素質や溫蓄を、證明する唯一の資料は、依然として、かれが發表した著書論文であります。

一片の論文、一部の著書をも、發表せずして、有力大學の正教授の地位を獲得する言ふやうな、不勞所得の幸福は、イタリー大學教授の知り得ないところでありま。只、著書、論文等に對する學界の客觀的批評こそ、かれの學問向上の唯一の指針であります。かくして、かれは、三流大學から二流大學、二流大學から一流大學と、順次向上の階梯を登つてゆくのであります。ですから、始めから一流大學の正教授として、その大學に終始する人の如きは、例外中の例外であります。大概

のイタリー大學教授は、日本の地方官が嘗める浮草生活をつづけて、大學から大學へ流轉します。只、日本の地方官と異なるところは、

缺員あることに應募者から補充するのでありますから、如何に文部省の干渉が厳しいにしても、教授の左遷言ふやうなことでありません。同じ流轉でも、上進的流轉運動はありま。下降的流轉運動はありません。

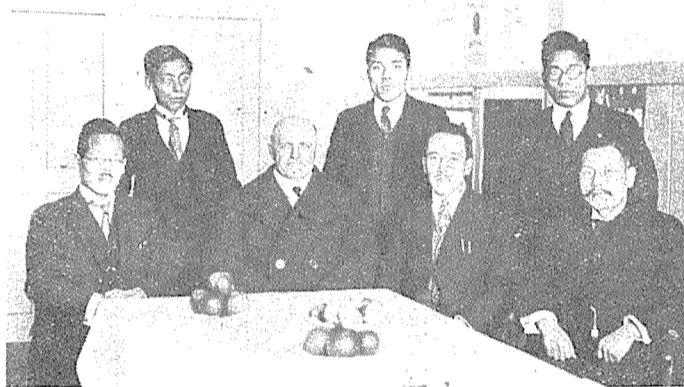
さう思つて見ますれば、このため許りではありますまいが、イタリア大學の教授講師達はいふまでもなく、その他の人でも、自分が學術雜誌に發表した諸論文の別刷を、多くて數十部、すくなくとも、數部は、必ず保存してゐられるやうです。今日まで、わたくしが訪問したイタリア大學の諸教授は、わたくしが格別要求もしないのに、この種の論文別刷を、惜し氣もなく、分與せられるのを常としました。これ等の諸論文の別刷は、前に書いた正教授缺員補充のための募集に應募する資料として、絶へず準備されてゐるのでございませう。

以上詳しく述べましたやうな事情ですから、ローマ大學の出身者といへども、母校のローマ大學に正教授として、復歸することは、仲容易のことではありません。たゞひ、最後に幸ひ復歸することが出来るにしても、卒業後、それまで長い浮草生活をつづけねばなりません。そして、出身大學に附隨する背景的勢力の大きい影に安眠するまへに、嚴正な客觀的批判の對象となるべき學的業績を創作するに鋭意努力せなければなりません。

『そこで、イタリアの學界では、大學の「卒業生閥」もいふべき學閥は、尠くとも、大學教授の任命に關するかぎりに於ては、あまり表面に現はれてゐません。今、總括的に、其の主理由をあけてみれば、他國のように有力な公私立の大學がなく、今御説明になつた日本の「官學閥」のやうに、特更に黨派を設けて、自己の地位を擁護する必要がなかつたことが其の一つでせう。イタリアでは、官立大學の數が多く、其間に一、二、三流といふやうな等級が付けられてゐますが、其の等級は、大部分は架空な評判に原因し、實際は、各大學もそれぞれ長短があつて、其の間に、甲乙の別を付することがむづかしいのが其の二でせう。官制上、各官立大學の地位が平等であることが、其の三でせう。大學正教授の殆

うな等級が付けられてゐますが、其の等級は、大部分は架空な評判に原因し、實際は、各大學もそれぞれ長短があつて、其の間に、甲乙の別を付することがむづかしいのが其の二でせう。官制上、各官立大學の地位が平等であることが、其の三でせう。大學正教授の殆

去月二日來學せる米國學生代表アーサー・エリオット氏
(前號記事参照)



んぎ全部が、先づ、三流大學から出發して、次第に上進し、其間、各大學を平均五六年毎に轉轉するのが其の四でせう。教授採用に對する資格認定の必須條件が、候補者が發表した著書、論文による客觀的業績にあることが、其の五でせう。そして、最後に、教授採用の終局的決定權が、比較的公平な文部當局にあ

ることが其の六でせう。『今、ローマ大學の正教授になつてゐる自分がかういふことを言ふのは變に聞ゆるが、イタリアに於ける大學教授の登りつめる最高峯として、皆から憧憬せられてゐるのは、先づ、ローマ大學のやうです。わたくしも、約二十年ばかり前に、グラチアニ教授(Augusto Graziani)にあそを譲つて、ナポリ大學からローマ大學に轉任して來ました。そして、無論、このローマ大學を、わたくしの墳墓の場所と覺悟してゐます。有名な法理學者ヴァンニ教授(Tullius Vanni)も、デル・ヴェキオ教授にあそを譲つて、ボローニャ大學からローマ大學に來て、そこで長逝せられた。また、有名な刑法學者フェルリ教授(Eurico Ferri)も、ビザ大學からローマ大學に來られ、恐らく、同教授も、わたくしと同じく、其の最後の年まで、ここで勤められるでせう。』

『しかし、イタリア大學の教授間に、本當の意味の「學閥」、換言すれば、學問上の主張傾向を同じくするもの達が、一つの學派を作つて、結合協力する意味の「學派的學閥」は、存在します。たゞへば、イタリア經濟學界においても、故バレット教授をその指導者といひだす所謂數理經濟學派に屬する人人、わたくし達が屬してゐる見られてゐる所謂主觀經濟學派に同情せる人人、それから、ロシア教授を盟主と仰いでゐる所謂社會學的經濟學派に屬する人人は、無意識裡に各各一團をなし、自分達の學派に屬したり、または、同情をもつ學者を、なるだけ、有力な大學の正教授に推薦しようとする暗黙の裡に努力してゐるあそが見えます。そして、バレット派の數理經濟學派、

わたくし達の主觀經濟學派とは、今日のところ、割合に仲がよく、この双方が聯合して、ロシア教授の社會學的經濟學派に當らうとしてゐる氣勢が見えます。法理學においても、理想主義と實證主義とが相對抗して、盛んに自己の學派の勢力を擴張しようとする努力してゐるやうです。刑法學においても、社會學派と古典學派とが、旺んに争ふてゐるやうです。バントラレオニ教授は、なほ微に入り、細を穿つといふべきに、その精練された英語で、イタリア大學の組織などを、語られました。が、その一部は、既に、本學報第十六號に掲載した『イタリア大學の組織及内容に就て』と題する拙稿に詳述しておきましたので、重複を避けるために、ここでは省略いたします。

三

これから、わたくしは、話題を轉じて、バントラレオニ教授の學問觀とか、或ひは、人生觀とかいふものを、謹聴したいと思ひました。嘗て、バントラレオニ教授の學敵であるロシア教授を、トリノ市のその私邸に訪問しましたとき、ロシア老教授の唇から、沈痛な語調で洩れた言葉、『イタリア經濟學の將來を觀測し、これから主流を見出さなければ、それは傳統經濟學の復活といふ文句で纏めることが出来るであらう。(中略)社會主義的經濟學の文獻に深く興味を有し、これが研究に半生を費やしたる自分、傳統經濟學の大殿堂を崩壊せんと晩年をアダム・スミスリカードの研究に没頭した自分その自分が、この言葉を發することは、自分の努力の無効なりしこと、傳統經濟學の堅壘が容易に抜けぬことを、自白するやうなものだが、致し方ない。』(本

學報第十九號拙稿「ロシア教授訪問記」(參照)を想ひ起しながら、わたくしは、つぎのやうな質問を試みました。

『失禮でございますが、先生に三四の事項を、お伺ひいたしたうございます。その一日は、先生が最近ほんご、純理經濟學の領域において、御意見を發表なさいますんで、むしろ、政治問題の方に、より以上の興味を持ち、毎年これ等の政治問題を取扱つた御著書を續續御發表になりますのは、一體どうゆう御動機からでございますか。その二は、先生がローマ大學で毎年なさいます「經濟學原理」の御講究を、謄寫刷りにした私製講義録が、びつくりするやうな高い値段で、學生間に賣買されてゐますが、先生は、何故にこの講義録を公然出版することを御許しになりませんか。その三は、その方が學生も助かり經濟學界一般も裨益されるでせうその三は、現在のイタリ―經濟學界に對する先生の御感想を、極く大體だけで、よろしゆうございいますから、お洩らし下さいませんか。』

わたくしが提出しましたこの三つの質問に對し、パンタレオニ教授が快く答へられた御言葉は、わたくしに、最も深い感銘をあたへました。今、この文を綴りつつあるわたくしの頭腦中にも、なほ其の言葉の一つ一つが、浮彫のやうに鮮かな印象として、残つてゐます。『學問すなはち眞理は、永遠の生命を持つてゐますが、いかに華やかでも、政治活動は一時的の效果より外もたらさない。ローマ大學の經濟學教授としての自分は、わたくしの全面目であります。ミころが、晩年になつて上院議員に、勅選せられてから、少し許り、實

際政治に關係することにりました。今申した通り永遠の生命を有する學問で、一時的の現象である政治で、ここに並べて、わたくしに其の一を擇らば言はれたら、無論わたくしは、すこしの躊躇もなく、前者を擇ぶに答ゆるであります。そして、最近數年間に出版されたわたくしの本が、悉く、實際政治に關係あるものばかりだから、人によつては、わたくしの脱線振りを面白く思つてゐないかもしれない。わたくしは、能くこれを知つてゐます。が、書齋で、研究室で、講堂で、冷やかな經濟法則を探索することに没頭すべき學窓があるにしろ、わたくしが、イタリ―を祖國とし、しかも、最も強く祖國を愛する一人である以上、歐洲戰後におけるイタリ―の荒みきつた亡國狀態を、無關心に放任してゐるわけには行かない。』

わたくしに雖も、かならずしも、無産階級の憎むべき敵ではありません。むしろ、本當のこゝを言へば、其の同情者です。國民中、その最大の人口率を占むる勞働階級の經濟的及び社會的地位を向上し、かれ等をして、本當に人間らしい文化生活を享有せしむるため、起される諸運動に對し、決して反對するものではない。かへつて、勞働階級の奴隸的環境からの解放を企圖する諸種の社會運動や社會政策については、人一倍配慮しつつある者であります。さはいへども、歐洲戰後におけるイタリ―社會主義者や、共產主義者共が、イタリ―勞働者の解放運動だを稱して、企てた勞働專制の暴狀は、一愛國者として默視することが出来なかつた。かれ等は、明かに、露國から宣傳費を貰つて、そして勞農

シアの犬になつて、わたくし達の愛するこのイタリ―の主權を僭奪しようとしたのです。かれ等國賊共は、かれ等の手によつて、イタリ―に勞働者の天國が出来るやうに愚民達を瞞着して、その實、このイタリ―に悲惨なる地獄を招來し、このイタリ―を荒廢した墳墓さしやうとしたのです。ご覽なさい。かれ等が得意氣に試みた工場占領、工場管理の結果を。そこには、ただ、イタリ―の悲しむべき破産があつただけです。わたくしは、時事に迂遠な一學徒であつても、かれ等の暴虐を見るに堪へませんでした。そこで、學問は學問、政治は政治で、明確に區別を立て、そして、イタリ―擁護のために、老軀をも省みず起つたのです。そして、筆に口に、反逆者達を攻撃したのです。ミころが、天未だわが祖國を捨てず、ムソリニ氏のやうな一英雄が出現して、累卵の危きにあつたイタリ―を反逆者の手から救つてくれたのです。この意味において、わたくしは、色色の批評はありますが、ムソリニ首相に、深い敬意を表します。ムソリニ首相とわたくしとは、極めて親密な間柄ですから、わたくしの口から同氏を賞めることは、穩當ではないと思ひますが、兎に角ムソリニ氏は確に稀世の傑物です。』

『わたくしは、正直に告白すれば、民衆政治とか民主政治といふことが嫌ひです。まへにも、一寸この點に觸れておきましたが、元來社會とか、あるひは、國家とかいふものは、決して、多數者によつて指導されたり、支配されたりするものではありません。煽動政治家の慣用語である「民衆の聲」の如きも、決して、多數者の意志が、正直に表白されたもの

ではありません。今の民衆は、社會や國家や政治について、自分の意見いふものを持ちあはせてゐるかぎうかさへ疑問です。まして、今のミころでは其の意志を表白する合理的方法もなければ、また、その方法を知つてもゐない。ただ、指導者の意志のままに、右や左に動くのです。社會を動かし、民衆を指導し、支配するのは、いつの世、いかなる場所においても、少數の識者のみです。賢人です。そこで、本當に國家社會を改善しようと思へば、其の少數の賢者が有する卓拔なる頭腦の力を、充分國家社會のため利用出来るやうな制度を、こしらへねばなりません。なるべく、識者の意見が、多數者の愚論に支配されぬやうにするのです。この意味に於て、最近の英國の總選舉で、英國勞働黨が、多數を制したことは、英國の幸福であるかぎうか疑問であると思ひます。』

そのうち、パンタレオニ教授とわたくしとの間に、歐洲各國における現時の勞働運動に關する談話が、十四五分間も繼續しました。パンタレオニ教授が有せられる保守的傾向に、わたくしが有する急進的傾向とが、社會運動における方針として、一致するはずはありませんでしたが、二人の意見は異なつても、自分の信ずる主義にあくまで忠實なパンタレオニ教授の眞摯な態度に對しては、しばしば、襟を正しました。

四

『それから、第二の御質問に、お答へしたいと思ひます。なるほご、わたくしは、ローマ大學で、毎年、經濟學原理の講義をつづけてゐます。その講義は、毎年、すこしづつ變つ

てゆくので、其の講義筆記も、これに伴つて變つて行く譯けです。ですから、學生の中には、これを面倒がつてゐる者もありませう。

そんな噂を聞いたことがないこともありません。しかし、靜かに考へて見ますれば、大學に於ける講義といふものは、ある學者が持つてゐる専門學に關する蘊蓄を、充分に發揮するに相應はしいものでせうか。わたくしは、これを疑問だと思ひます。忌憚なくいへば、大學で講義をする教授は、眞理追及のため致して研究する教授との間には、本質的の相違が存在するのではありますまいか。大學で學生に對してなす講義の場合には、講義を授ける教授の智識は、講義を聴く學生達の智識との間に、非常なる相違があります。ローマ大學も學生といへば、可なり高等な學力を有するやうに普通想像されませうが、ローマ大學で、わたくしの經濟學原論の講義を聴く學生は、經濟學においては全くの無學者です。

經濟學は何ぞや、資本は何かといふやうなことを、初歩から説明してゆかねばならぬほぎ、豫備知識がないのです。そこで、教授は、學生の理解力に適合するやうに、自分の學識の表現を低下しなければなりません。さうせずして、若しも教授が、其の有する斯學の蘊蓄を、全部何等の手加減なく、學生の前に披瀝したとしたなら、恐らく大部分、或ひは、全部の學生は、何等の理解をも持ち得ぬであります。そこで結局、大學の講堂でなす教授の講義は、教授が有する深遠な専門學的智識の一小部分を、極めて調子を下ろして、講義したものだと言ふことになります。自分でも下らないこと、馬鹿馬鹿しいことだと思

ふやうな卑近の例をも、學生の理解を助けるためには、言はなければならぬことが間聞あります。ですから、偽らないところを申しあげれば、教授が大學で試みる講義といふものは、特殊のものを除く外、教授の研究の妨害にこそなれ、あまり、その利益なるものはありません。かやうな低級な講義筆記を、一個の著書の如くして出版することは、わたくしに三つては、自己冒瀆のやうに思はれます。そのために、わたくしはわたくしの大學における講義の筆記を、活字として出版することをだれにも許しません。

『そのつぎに、わたくしに、さうしても了解できない、ある種の學者の態度があります。それは外でもありません、旺んに「經濟學原理」をか、「經濟學原論」をか、「經濟學批判」をか、いふ崇重な題目のものに、平凡な陳腐な教科書や註釋書をつくる人達の態度です。しかも、驚くことには、このために、何百頁といふ膨大な書冊を、つぎからつぎへ、産出する學者があります。中には、全く、勞働的の大量生産だと思はしめるものがあります。そして試みに、それ等の膨大な教科書の著述の三四を比較してみると、その内容中、九十五パーセントまでは、同じ古い體系の下に、同じ古い題目を取扱ひ、同じく平凡な解釋をあててあります。これを極言しますれば、同一文句の違つた人による再現にすぎないやうな著述を發見することがあります。これ等は、經濟學の通俗的宣傳要具としては、甚だ意味があるでせう。深遠難解な經濟學の諸原理を、なるべく丁寧に註釋して、その理解を容易にし、出来るだけ多數の人達に教へこむ

といふやうな通俗教育のためには、大變利益があるでせう。丁度、わたくし達が大學で試みる調子をおろした講義と同じやうに。これも誠に結構です。經濟學界において、自己の獨創力を認識させるやうな研究を發表すかはりに、程度の低い人達相手に、經濟學の宣傳事業に従事することも、あなたが悪いことではないでせう。ところが、相當な大學の正教授であつて、一生こんな事許りして精力を使ひはたし、獨創力のある一部の論文をも外に發表しない人があるのは、果して感心していいものでせうか。

パンタレオニ教授の語調は、いよいよ、辛辣味を加へてゆきました。日は三つぷり暮れて、室の中央につるされた電燈から放射される白い光線は、四間の書棚の中に目白押しにつめこまれた書籍の背後に反射して、この室をより一層學者の室らしく見せました。

『ロリア教授が、晩年になつて氣付かつたといふ、『傳統經濟學』と言ふ大殿堂の小修理云云』のことは、わたくしも亦早くから氣がついてゐたところでした。アダム・スミスやリカルドはなんといつても、世界經濟學者中の天才です。あんな經濟學者は、この國でも滅多に生れるものではありません。其の人達の經濟學説を、根底から崩して仕舞ふといふことは、かれ等以上の稀世の異材でなければ出来ません。わたくしのやうな者は、天才の賦質なく、又天才であるこの自惚れも持ちあはせませんから、自己の獨創を溢れるほど盛つた大著述をなさうと考へたこともありません。ただ、わたくしが有する希望は、先人が残してくれた經濟學上の偉大な業績の只「一

角」だけを、すこしづつ崩して、これに自己の獨創に基づく「補充」若しくは「小修理」をしてみたいといふことです。このためには、何何原理といふ膨大な著述をする必要がありません。小さい論文の形式で發表すれば澤山だと思ひます。先人が既に述べてゐる議論などを援用する場合などには、其の文献が、珍籍に屬したり、或ひは、絶版になつたといふやうな理由により、普通の研究者の手に容易に這入らぬさき文、記述して、他はなるだけ省略した方がよろしいと思ひます。この意味から、わたくしは、眞理追及の一學徒としての經濟學者の任務は、其人が天才でない限り、論文主義によつて、最もよく果たすことが出来るだらうと思ひます。

なほ、パンタレオニ教授の御意見によれば、アダム・スミス以後、今日までの經濟學者に、大畧、三種の類型があるさうでございます。その第一の類型に屬する人人は、傳統經濟學とか、數理經濟學とか、歴史經濟學とか、主觀經濟學とかいふ、兎も角も、經濟學史上劃時的學派を創りだした人で、先づ天才の範疇に編入するに足る學者です。これ等の人達こそ、獨創性を最も豊かに恵まれてゐる人人です。それから、膨大な著述をされても、學問的意義と價值とがあるのです。斯かる人人の大著述は、大に歡迎するところであります。その第二の類型に屬する人人は、各各これらの諸學派の何れかに屬しながらも、其の學派を創始した人の學説に多少の不備缺陷を認め、自己の力でこれを少しづつ訂正し、より完全なものにしようとする學徒であります。現存せる經濟學者中、學的良心の鋭い人

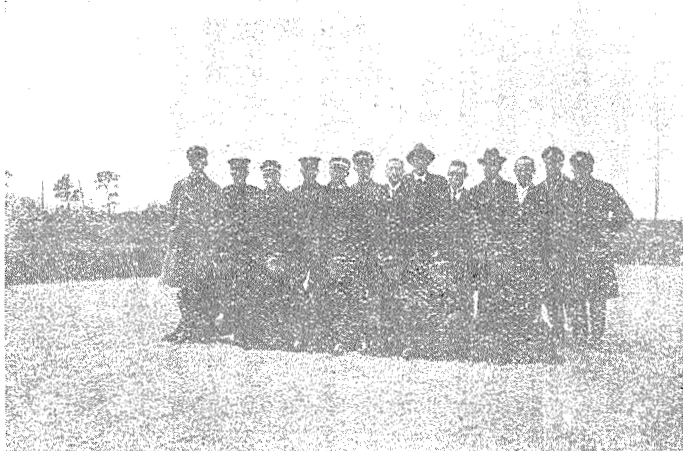
人の大部分は、この中に編入されると思ひます。わたくしも、この範疇内の男だと思ひます。これ等の人人が、なすべき最もよき方法は、小論文によつて、先人が遺した學說の一角を訂正してゆくことです。つまり、わたくしがいふ論文主義によるのです。その第三の類型に屬する人人は、所謂教科書製造者、講義學者、もしくは、宣傳學者です。何等の獨創性もなく、只忠實に先人の糟粕をなめて、これを、社會に紹介するのみです。

五

ながながしく書きつづけましたパンタレオニ教授會見記も、略略、その終末に近づきました。未だ、書きたいこと、又、書くべきことは、澤山ありますが、それ等を記述する機會はまた他にもあることでせう。ですから、以下は、わたくしの旅行手控のはしに書きこめてゐる覺書中から、其の二三を抽出したのです。

一、ロリア教授のこと。まへに何度も書きましたことほり、現在のイタリー經濟學界は、ローマ大學のパンタレオニ教授と、トリノ大學のロリア教授との二碩學によつて、代表されてゐます。わたくしが觀察するところによりますれば、ロリア教授は、ナポリ大學のグラチアニ教授 (Graziani) と誼を結び、パンタレオニ學問に當らうとしてゐられるやうです。前に、ロリア教授に逢ひましたとき、教授は、イタリーにおける數理經濟學の陣營には、適當な後繼者のないことを、主要なる理由として、數理經濟學派凋落の微あることを主張されましたが、今、パンタレオニ教授によつて、ロリア教授のことを聞けば、教授

もまた同じやうな口調で、『ロリア教授は獨創性に富んだ、そして、頭腦の明晰な學者です。無論、イタリー經濟學の誇りを高める立派な學者です。しかし、不幸にも、嘗て、學界の視聽をひいた卓拔な學說も、その後の時勢の進みによつて、其の妥當でないことが證明せられました。一九〇〇年以前に發表された。



仁徳元〇院前に於ける〇院學會會員の合影

ロリア教授の經濟學說で、今日も雖もなほ、生命をもつてゐるものは、いくらもありまといふのも、一面の眞理でせうが『兩雄並びたす』といふのも亦他面の眞理でせう。

二、イタリーにおける新進經濟學者について。パンタレオニ教授は、今日のイタリー經

濟學界において、頭腦最も明晰にして、その著書の論理的なる點で、獨特の地位を保つてゐる人として、第一に、ローマ高等商業學校の現校長であり、『經濟學原論』(この書は全部で五巻になつてゐるが、其中たしか三巻丈け既に出版されてゐると思ふ)の著者であるパネ教授 (Panone) をあげられました。同教授には、パンタレオニ教授の御紹介で、翌日その御自宅を訪問いたしましたから、詳しいことは、別に記述する機會がありませう。

つぎに、ナポリ高等商業學校のアモゾー教授 (Amoroso) と、ピサ大學のボルガタ教授 (Borgatti) をあげられました。特に、この二人の近刊書を書棚から取出し來て示されましたが、その時其の著述名を控へておきませんでしたから、今俄に思ひだしません。しかし、ボルガタ教授のだつたと思ひますが、數學の公式が盛んに這入つてゐる本の頁をめくり乍ら『イタリーの若い經濟學者も、この位、立派な經濟學書を書くやうになつた』と獨語されたのを覚えてゐます。この他、經濟學者ではありませんが、社會學者中の新進として、ローマ大學教育學の私講師であるナミナス講師 (A. Namiis) に、面會してゆくやうに勧められました。ナミナス教授には、一九二三年に出版された『社會學及政治學原理』(Principii di Sociologia politica) と云ふ新著述があります。これが、イタリーにおいて、最も新しく出版された社會學書です。

三、英國の不遇な經濟學者 Wicksteed のこと。パンタレオニ教授は、書棚から、二冊の英文の著書を抽きだして來られ、わたくしに示されました。その一つは、Wickspeed が著した『經濟學の手引』(The Alphabet of

Economic Science, 1888) で、他は同じ人の著した『經濟學の常識』(The Common Sense of Political Economy, including a study of the human basis of economic law, 1910) といふ、一寸本の表題だけ見たなら、今までパンタレオニ教授が口を極めて罵倒された講義學者、教科書學者の通俗經濟書ではないかと思はしむる本でした。ところが、不思議にも、教授は口を極めてこの外觀上貧弱さうな著述を賞揚されました。實に驚ろく可きほど、立派な經濟學文獻である。日本で英國經濟學書を翻譯すれば、先づこの本から初めたらよからうとまでいはれたほどでした。『この本は、主觀經濟學の主眼點であるオーストリア學派の限界効用説を巧に消化し、これに英國經濟學史上の珍である Jevons の價值説を調和せしめて、而かも、すこしも見苦しい破綻を見せなかつた良著述である。それ許りではなく、その本のところどころに見ゆる經濟現象の數學的取扱の手端から見て、かれの數學における造詣が淺くないことを示してゐる。しかるに、かれは英國において學問の背景を持たなかつたために、一流大學教授の椅子を得なかつた。もし、かれをして、牛津大學あたりの正教授として、劍橋大學の Marshall 教授に對立せしめたならば、より一層引立ち、且つ伸びたであらうが、英國における學問の横暴は、かれをして徹頭徹尾不遇に置いた。が、しかし、わたくしが、英國經濟學者中最も實力ありしとして尊敬してゐる經濟學者である』とパンタレオニ教授は言はれた。わたくしは、言ふまでもなく經濟

學の一門外漢でありますから、Wicksteedに對するパンタレオニ教授の御意見を肯定することも、否定することも出来ませんが、試に、わたくしの手許にあるころの最も新らしく出版されたイタリイ經濟學書、ナポリ大學經濟學講師ラブリオラ氏(A. Labriola)の『經濟學の價值——經濟學批判序説——』(Li Valore della Scienza Economica, Napoli, 1922.)を繙いてみる。世界一流の經濟學者達と同様に、このWicksteedが旺んに引用されてゐた。英國の代表的經濟學者マーシアル教授よりも、一層頻繁に引用されてゐました。これを以て見ても、彼れが、パンタレオニ教授以外のイタリイ學者からも充分尊敬されてゐることが解ります。

四、教授の婦人論。パンタレオニ教授は、あまり勞働者の味方でもないやうでしたが、同時に婦人の同情者でもないやうでした。談話の途中で、教授は、一三度、四十歳餘りの賢明さうな一婦人を奥から呼ばれて、書棚から何の本を持つて来てくれと命ぜられました。その婦人は、非常に記憶がよいと見えて、丁度熟練な圖書館員のやうに、急速に其の本を見つけて持つて來られました。其の婦人が、あるひは、教授の令夫人ではないかとも想像しましたが、婦人の年齢と教授の年齢と、あまり違ひ過ぎるやうにも思はれるし、また、教授も、特別にわたくしに紹介もされませんでしたから、教授とそんな關係にある婦人か確むるこゝが出来ませんでした。わたくしは、其の婦人の記憶のよいのに感心して、『日本の學者の妻も、あのかた位、研究の手助けをして頂けば、その位助かるか解りません。日本も、もつと、女子の高等教育を發達せしめな

ければなりません。』と言ひましたところ、意外にも、パンタレオニ教授は皮肉な笑を浮べて吐きだすやうな句調で、其の婦人の後姿を見ながら言はれました。『不必要なこゝや、機械的のこゝをよく記憶してゐるのが女だ。うせ女は、胸から上で生きてゐる人間ではない。女の天地は別にある……』あゝの驚くべきは露骨な老教授の表現は、到底こゝで再現し得ないのを遺憾とします。

六

『ローマに滞在中は、何時でも遊びに來給へ』と、言はれたパンタレオニ教授のやさしい言葉を喜びながら、また、教授から頂いた二通の紹介狀を胸に抱いて、大正十二年十二月二十八日午後六時半、パンタレオニ教授のお宅を辭したのが、教授を見た最後でした。パンタレオニ教授の享年は六十八歳でございました。嗚呼!! (完)

(第九頁より續く)

をもつた最善の言語といひ「ウワーズウワース」は詩は熱情の表現であるをなし「ショペンハウエル」は詩は言語によつて空想を動かすの術だとし「ヘヴン」は詩は「質の上からいへば高尚な想像から生ずる思想であつてその主目的は快樂にある」とし、「ヘーゲル」は「詩には二つの表現法がある、其一つは音樂のその如くその物自身の精神によつて直接の感動を與へ他の一つは造形藝術のその如くに物體を作製して想像世界に到るを得しめ且つ事態の各部、考察の連續、情性の展開、葛藤及び行爲の過程を表現するものである」としてゐます。この外、最近諸學者の説を掲げてゐる。それで以上の諸説を考へ

てみまするその何れにも尤もらしく見られる點があるに又いづれも物足りない感じがする。では私の所謂「詩の意義」は如何だといへば實のこゝろ私も遺憾のない完全に近い詩の意義を知らないのではありません。が併し古今東西の詩に關する前哲諸家の説を能く能く玩味致しまするをそこに髣髴として詩の女神が降格して詩の意義を示唆して呉れるやうな感じが致しますがさてそれを表現するといふこゝになるに忽ちに平凡で常識的に墮して仕まひますがそれを我慢して

詩は詩的感情を詩的言語文字で表現したものである

といひましょう。この定義は口はばのひろいひひ分でありますが古今東西の諸家の詩に關する諸説をコンデンスしたつもりで詩の内容實質は詩的感情であり詩の外形式は詩的言語即ち律語であるといふことを示したものであります。併し畢竟は貫之の

大和歌は人の心を種としてよろづの言の葉とぞなれりける

と言つたのと同じであるといへます。ですから私の「詩學概論」はこの貫之の言の脚註に過ぎないといへます。(未完)

千里山俳壇

校 友 有 田 朝 冷

俳句は我國民性から生れた文學の一種であるこゝは今更喋喋を要しないのである。昨年死むだ大阪の彫塑家天岡均一氏は嘗て佛蘭西に游び、歸つた後「自分が佛蘭西滞在中に佛國人に對して誇り得るものは唯一の俳句であるこゝを思つた、文藝及び美術の都に於て自分に俳句があるを信じて居たこゝに依つて非

常に力強く振舞ふこゝが出来た」と語つたこゝがある。實に俳句は我國文學上の精彩である、本學報に校友及び學生の俳句を掲げるこゝは學究の餘技としてであると同時に人間生活の意義を呼稱するものである、奮つて投稿せられむこゝを希望する。

一、當分句數制限なし、半紙を用ふる事、送稿先 兵庫縣(芦屋局區内)深江 有田朝冷宛

一、締切 毎月二十日 一、封皮の上に「千里山俳句」と朱書する事

寒むく、さき臘の端山かな 有田朝冷

芹の香や蛤汁の薄濁り 鶯やかき餅吊るす小縁先 門口や枯木ながらに芽え返る 大阪や簀珍らしき諸子賣 岡本や朔日衆に梅三分 漸くに日永く梅の戻りかな

大正十四年三月十三日印刷 大正十四年三月十五日發行

不許複製

編輯兼發行人 辰巳經世

印刷者 飯田彌之助

印刷所 株式會社三有社

發行所 關西大學學報局

大正市北區上福島北二丁目

關西大學

大正市北區上福島北二丁目

關西大學

大正市外千里山

關西大學

電話 吹田 一二三

○募集人員

第一學年本科百五十名
第二、三、四學年若干名

○願書受付

三月一日ヨリ同二十五日まで

○入學試験

三月三十日

生徒募集

淀の水 高等女學校

(市內西區西島町)

○推薦入學

○試験科目

○成績發表

○電車下車

○汽車下車

無試験ハ五十名限り
本科第一學年 國語、算術
上級編入ハ別ニ定ム

四月一日

市電恩貴島町停留所
阪神傳法町停留所

南安治川驛

○募集人員

第一學年二百名、第二學年補缺若干名

○出願期間

三月一日ヨリ同三十一日まで

關西大學第二商業學校生徒募集

○入學試験

四月六日及同七日

○特長

甲種認可、修業年限三ヶ年、夜間教授

柿崎記念文庫新設に就て

本學理事として永年盡瘁された柿崎欽吾氏が昨年十二月遂に長逝せられたことは私共一同の誠に哀悼に堪へぬところであります。
就ては今回同志相謀り左記の通り事業を計劃して故人の本學に對する高德を永久に記念したいと存じます。何卒微衷を御諒察の上御賛同賜らんことを御願申上げます。

一、柿崎記念文庫を設けこれを關西大學に寄贈すること
二、右に要する資金は大方各位の喜捨に仰ぐこと、但し便宜上一口を金五圓とする

大正十四年三月

柿崎記念文庫設置發起人一同

○募集

第一學年百五十名 尋常小學卒業

○願書

三月二十九日まで受付

關西商業學校生徒募集

○入學試験

三月三十一日及四月一日 詳細入學心得ニアリ

○入學心得

其ノ他ハ本校ニ就キ又ハ郵券五錢送付

フェルモ一號

端西國ウ井リアム、ゼー、バーナード時計會社製「去華就實」主義
ノ時計、其號「フェルモ」伊語(FERMO)ハ實ニ其名ノ示スガ如
ク精確堅牢ニシテ永久ニ安心シテ御携帶ヲ願ヒ得ル斯界ノ
逸品切ニ御試用御勸メ申上マス



ニツケル	パリヌ型	「フェルモ」	アンクル	十五石入	八型半	腕時計	金貳拾五圓
銀	同	同	同	同	同	同	金貳拾貳圓
同	同	同	同	同	九型半	同	金貳拾壹圓
同	同	同	同	同	八型半	同	金參拾五圓
同	同	同	同	同	同	同	金參拾五圓
十八金	同	同	同	同	九型半	同	金四拾五圓
同	同	同	同	同	同	同	同
右ノ外ニ	同	同	同	同	同	同	同
ニツケル	パリヌ型	「コンゴ」	アンクル	十五石入	十型半	腕時計	金拾貳圓
銀	同	同	同	同	同	同	金拾參圓

大阪高麗橋四丁目(淀屋橋筋南入東側)



生駒時計店

電話 本局 八四五、四七一六
振替番號 大阪 三八五



◆◆◆てに中^{なか}の花^{はな}◆

ひ装^{よそは}の花^{はな}

大 阪



三越呉服店

空も、水も、なだらかな暖かさに、ふうわりと包まれて、
時々さつと吹く風に咲き亂れた櫻が、二ひら三ひら静かに
落ちてくる。春は今
闌でありまゝ。店内は
この自然の美しさにも
まして絢爛な情趣を湛
えつゝ皆様の御來遊を
お待ち申してをります
尙催しの主なるものは

四月の三越

石川縣工藝品展覽會 一日より 十日まで 西館七階	大坂記念博覽會 協賛館「今昔の大阪」 廿八日まで 西館八階	庭山耕圃氏繪畫展覽會 一日より 五日まで 東館六階
山村耕花氏繪畫展覽會 七日より 十二日まで 東館六階	五月人形陳列會 十四日より 東館六階	第十一回大阪美術展覽會 十七日より 廿七日まで 西館七階

一三

ル依二令校學門專

部 門 專

募集學年 第一學年
出願期間 三月三十一日マデ
試験期日 四月二日ヨリ同四日マデ
科 別 法律學科、商業學科、經濟學科、文學科

ル依二令學大

科豫學大

募集學年 第一學年
出願期間 四月五日マデ
試験科目 英語、日本作文、代數
試験期日 四月七日ヨリ同九日マデ
(商業學校卒業者ハ商算)

今回法學部ヲ法文學部ニ改メ法律學科及ビ政治學科ノ外ニ新ニ文學科ヲ増設ス 尙ホ經濟學部ヲ分チテ經濟學科及ビ商業學科トナスコト從前ニ同ジ

關 西 大 學 學 生 募 集

島 福 區 北 市 阪 大

學 大 西 關

堀 佐 土 話 電

〇七五五・九四〇一

山 里 千 外 市 阪 大

學 大 西 關

田 吹 話 電

三 二 一

會照ニ宛課務教舍學島福上ノ記明(部門專ハ又科豫學大)科學願志ヘ添錢五券郵ハ細詳